

平成22年度

千葉大学附属図書館自己点検・評価報告書

平成23年2月

千葉大学附属図書館

目 次

はじめに	1
点検・評価委員会名簿 活動記録	3
点検・評価委員会規程	4
評価の概要	6
自己点検・評価項目一覧表	8
評価結果	11
(付録) 評価用資料集	39
1. 管理運営	40
2. 予算・経費	44
3. 施設・設備	45
4. 学術情報資源	47
5. サービス	48
6. 情報発信・広報	55
7. 地域・社会連携	66
8. 他機関図書館との連携	69
9. 各館特記	73
(参考資料)	78

はじめに

ここに公にするのは、千葉大学附属図書館において本年度実施した自己点検・評価の結果である。

当初の予定では昨年度に点検・評価を実施することになっていたのだが、図書館の建物改修等に関する概算要求の取りまとめの時期と重なったために、一年延期されたのだった。一年先送りしたとはいえ、今年度は今年度で、幸いにも認められた概算要求事項を実行する初年度となり、とりわけ点検・評価のための資料を収集し作成する作業に当たった事務方には多大な労苦を強いる結果となった。また、点検・評価に携わっていただいた委員の方々にも相当ハードなスケジュールで作業を進めていただくこととなった。こうした困難の中でご協力いただいた関係各位に対し、深く感謝したい。

以上のような事情のもとで、どこまで十分な点検・評価ができるか危ぶまれたことも事実だが、以下に示されるように、結果としては、図書館の組織や活動全般についてはほぼ網羅的に点検・評価を行うことができた。このようなかたちでの附属図書館に関する自己点検・評価は、平成 14 年度以来、8 年振りということになる。(平成 16 年度にも自己点検・評価が実施されているが、この時の点検・評価は主として当該年度の計画に関してであった。)

この 8 年の間に、千葉大学を含む国立大学は法人化され、大学を取り巻く環境も、そして大学図書館を取り巻く環境も大きく変化したことは疑いない。特に予算や人員の面では厳しい運営を余儀なくされてきたが、そのような条件の中でも、千葉大学附属図書館は全学の支援も得て、このたび建物を増改築し、来年度には「アカデミック・リンク」と呼ばれるシステムを構築し、新たな歩みを開始する運びとなった。今回の自己点検・評価は、こうした附属図書館の発展への道程を自ずと振り返り、それを総括する意味合いを持ったと言えようが、本報告書が今後の図書館のさらなる発展にも資することを心から望みたい。

千葉大学附属図書館長

西村 靖敬

千葉大学附属図書館自己点検・評価委員会

委員長

西村靖敬 附属図書館長

委員

瀧口正樹 亥鼻分館長

沖津 進 松戸分館長

小倉裕直 工学研究科教授

山内正平 普遍教育センター教授

木内匡大 情報部長

杉山宗武 情報部学術情報課長

佐藤尚武 情報部情報サービス課長

活動記録

- ・ 2010. 09. 17 第 1 回委員会開催（スケジュール、点検・評価項目、評価方法の審議）
- ・ 2010. 09～10 評価用資料とりまとめ
- ・ 2010. 11. 01 評価用資料および評価シートを事務局から委員に送付
- ・ 2010. 11. 04 第 2 回委員会開催（評価用資料、評価方法の確認）
- ・ 2010. 11 評価用資料による評価の実施
- ・ 2010. 11～12 評価シートとりまとめ、報告書案作成
- ・ 2010. 12. 14 第 3 回委員会開催（報告書案の検討）
- ・ 2011. 02 情報化推進企画室図書館専門部会へ報告書案提出（報告書案の審議、承認）

千葉大学附属図書館点検・評価委員会規程

制定 平成 22 年 7 月 15 日

(設置)

第 1 条 国立大学法人千葉大学点検・評価規程（平成 20 年 4 月 1 日制定）に基づき、千葉大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）の教育研究活動支援，組織，運営及び施設・設備の状況について自ら点検・評価を行うため，附属図書館点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は，次の各号に定める者をもって組織する。

- 一 附属図書館長
- 二 亥鼻分館長，松戸分館長
- 三 情報化推進企画室図書館専門部会（以下「専門部会」という。）から選出された委員若干名
- 四 情報部長，学術情報課長及び情報サービス課長
- 五 その他委員会が必要と認めた者

(委員長)

第 3 条 委員会に委員長を置き，附属図書館長をもって充てる。

2 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

(会議)

第 4 条 委員会は，委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

(ワーキング・グループ)

第 5 条 委員会は，点検・評価に関する専門的事項を調査検討するため，ワーキング・グループを置くことができる。

(点検・評価事項)

第 6 条 委員会は，次の各号に掲げる事項について点検・評価を行う。

- 一 附属図書館のあり方・目標に関すること
- 二 図書館資料及び学術情報に関すること
- 三 教育研究支援活動に関すること
- 四 組織，運営に関すること
- 五 施設・設備に関すること
- 六 財政に関すること
- 七 その他委員会が必要と認める事項

(点検・評価の取りまとめ及び公表)

第 7 条 委員会は、点検・評価の結果を取りまとめ、専門部会の了承を得て学長に報告することとし、その内容を学内外に公表するものとする。

(庶務)

第 8 条 委員会に関する庶務は、情報部学術情報課において処理する。

(改正)

第 9 条 この規程の改正は、専門部会の議を経るものとする。

(雑則)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、附属図書館の点検・評価に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 22 年 7 月 15 日から施行する。

2 千葉大学附属図書館自己点検・評価委員会規程（平成 16 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

評価の概要

1. 評価対象期間

平成 16 年度から平成 21 年度の千葉大学中期目標・中期計画第 1 期期間の実績を基本とした。平成 20 年度から平成 21 年度を重点的な対象とした。

2. 評価項目

管理運営

予算・経費

施設・設備

学術情報資源

サービス

情報発信・広報

地域・社会連携

他機関図書館との連携

各館特記

3. 評価用資料

点検・評価用資料作成にあたって以下の資料を用いた。

○「学術情報基盤実態調査-結果の概要」（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/kekka/1279736.htm

○「日本の図書館統計」（日本図書館協会）

<http://www.jla.or.jp/statistics/index.html>

○千葉大学の中期目標期間の実施状況経年データ、附属図書館の年度計画及び業務実績報告書

4. 評価方法

各委員が評価用資料をもとに、評価シートを記入する形で行った。評価シートには、各項目の個別評価を次の 4 段階で記入することとした。

- A 非常に良好である・・・十分な活動がなされている
- B おおむね良好である・・・改善の余地がある
- C やや不十分である・・・改善の必要がある
- D 不十分である・・・大幅な改善が必要である

また、B、C 又は D 評価の場合「改善に向けての提言」を記入することとした。

注) 前項「2. 評価項目」のように決定した 9 項目の評価をした上で、委員全員により「大項目 10 総括」の評価と提言を記述することとした。

平成 22 年度 自己点検・評価項目（一覧表）

大項目	中項目・小項目
1. 管理運営	1.1. 運営組織 1.2. 専門部会 1.3. 概算要求
2. 予算・経費	2.1. 図書購入費等 2.2. 図書館運営費
3. 施設・設備	3.1. 面積 3.2. 閲覧座席数 3.3. 収容冊数 3.4. 利用者用 PC 台数
4. 学術情報資源	4.1. 所蔵資料 4.1.1. 蔵書冊数 4.1.2. 図書受入冊数 4.1.3. 雑誌所蔵タイトル数 4.1.4. 雑誌受入タイトル数 4.1.5. 新聞受入タイトル数 4.1.6. 視聴覚資料タイトル数（CD・DVD・ビデオ） 4.2. 電子的資料（電子ジャーナル・電子ブック・データベース）
5. サービス	5.1. サービス全般 5.1.1. 利用対象者数（教職員数・学生数） 5.1.2. 開館日数・開館時間（有人開館日数・24 時間開館） 5.1.3. 入館者数 5.1.4. 貸出冊数 5.1.5. 文献複写・現物貸借件数 5.1.6. レファレンス件数 5.2. リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト 5.2.1. 授業資料ナビゲータ作成科目数 5.2.2. ポッドキャスト@千葉大図書館 5.3. 図書館提供の Web サービス ・ ILL オンライン申し込み ・ MyLibrary ・ 貸出更新 ・ ベストリーダ、新着図書 ・ OPAC ・ リンクリゾルバ 等

<p>6. 情報発信・広報</p>	<p>6.1. ライブラリー・イノベーション・センター(LIC) 6.2. 図書館員による研究教育発表等 6.2.1. 論文・口頭発表 (H20～21 年度実績) 6.2.2. 研修会等講師派遣 (H20～21 年度実績) 6.3. 情報リテラシー教育 6.4. 学術成果リポジトリ(CURATOR) 6.5. 附属図書館 Web サイト ・ RSS 配信 ・ Web サイト更新 等 6.6. 出版物 ・ InfoPort ・ まなびなび 等 6.7. CUFA、CURT</p>
<p>7. 地域・社会連携</p>	<p>7.1. 市民への公開 7.1.1. 入館者数 7.1.2. 貸出冊数 7.1.3. 千葉県立図書館との連携 ・ 松戸分館と県立西部図書館の連携・協力 ・ 附属図書館と県立図書館の相互協力協定 等 7.1.4. 高大連携 7.1.5. 千葉市図書館情報ネットワーク協議会 7.1.6. 千葉県大学図書館協議会</p>
<p>8. 他機関図書館との連携</p>	<p>8.1. 国立大学図書館協会 8.1.1. 国立大学図書館協力委員会との連携・協力 8.1.1.1. 国公私専門委員会への委員の派遣 8.1.1.2. 著作権当事者協議会への委員の派遣 8.1.2. 日本図書館協会との連携・協力 8.1.2.1. 日図協委員会への委員の派遣 8.1.3. 国大図協学術情報委員会電子ジャーナルタスクフォース 8.2. 最先端学術情報基盤 (CSI) 構築推進委託事業 8.3. デジタルリポジトリ連合 (DRF) 8.3.1. DRFIC 8.3.2. DRF ワークショップ</p>
<p>9. 各館特記</p>	<p>9.1. 本館 9.2. 亥鼻分館 9.3. 松戸分館</p>

評価結果

大項目 1 管理運営

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	●●●● (4)
B：おおむね良好である	●●●● (4)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

情報化推進企画室の下に設置された各専門部会や事務組織が連携して良好に管理運営がなされている。特に総合メディアホール整備計画検討専門部会（後にアカデミック・リンク検討専門部会に改組）において本館増改築にかかる概算要求案を策定し、実現に至ったことは高く評価できる。

その一方で、各専門部会の役割と位置づけが必ずしも明確でなく、専門部会の中には会議の開催状況からみて機能が不明確な面も見受けられる。

今後は、アカデミック・リンク・センター設置に向けて、さらに運営組織や事務組織の見直しを図ることが必要であり、学生も参画する双方向型の運営も求められよう。

【評価コメント】

○情報化推進企画室の下に設置された各専門部会における審議や検討に基づいて、適切に管理運営がなされている。とりわけ、総合メディアホール整備計画検討専門部会（後にアカデミック・リンク検討専門部会に改組）において本館（旧館）の耐震改修と増築およびアカデミック・リンク構築のための概算要求案を策定し、一部が実現の運びに至ったことは高く評価できる。

○実質的におおむね良好に機能していると思われる。一方、全学的な問題でもあるが、組織の重複感には改善の余地がある。

○運営組織については、情報化推進企画室のもとに部会の設置や図書館の事務組織について、必要な体制と機能が確保されている。

○管理運営に関しては個別には改善すべき点も見られるが、全般として高く評価できる。

○情報化の推進に対応し、専門部会を整理して、それぞれのミッションを明確にしている点は評価できる。ただし、図書館専門部会と学術資料専門部会の役割分担がやや不明

確に思われる。なお、図書館長、分館長と図書館専門部会の関係がわかりにくい。概算要求でアカデミック・リンクが認められたことは特筆すべきであろう。

○図書館専門部会、学術資料専門部会、アカデミック・リンク検討専門部会、研究者情報管理システム検討専門部会の4つの専門部会について、4つの専門部会の開催が不定期であり、開催実績として役割と機能が不明確な印象を受ける。

○情報化推進企画室の下の専門部会は妥当な数、区分けになっていると考えられ、良好な組織構成である。

○長年の懸案であった図書館の概算要求が実現したことは高く評価できる。

○長年をかけて継続的に本館増改築にかかる概算要求案を策定し、実現したことは評価できる。

○アカデミック・リンクの予算獲得のための努力、およびそれに伴う組織の構築は高く評価できる。

○附属図書館の増改築要求がアカデミック・リンク概算要求として認められたことと、研究者情報システム (CUFA) のプロトタイプが完成した (6.7. CUFA、CURT 参照) ことは非常に評価できる。

○概算要求に関して、本館の耐震改修及び増築が実現したことはアカデミック・リンク構想とあわせて特筆に値する。学生の自発的な学習に対する支援活動や学術情報基盤整備を推進するうえでハード、ソフト両面において強力にバックアップするものであり、さらなる関係部局との協力のもとに本学の教育改革の目玉として有効に機能することが望まれる。

【改善に向けての提言】

○世界的に過渡的な課題と思われるが、図書館と情報との関係を整理し、組織を練り直す必要がある。例えば、図書館専門部会と学術資料専門部会の関係、研究者情報管理システム検討専門部会と図書館との関係は、特に外部からは把握が難しいと思われる。また、これらが情報化推進企画室の部会となっているが、通常の委員会との相違点が解りにくい。

○専門部会の役割と位置づけを明確化し、機能的な管理運営組織のあり方を検討すべきである。

○概算要求事項となっているアカデミック・リンクが検討されているが、アカデミック・リンクの組織や図書館の役割などを明確にし、図書館業務をさらに効率的に機能させる工夫が必要である。

○学生の声を活かす仕組みが不明。サービスを提供するという一方通行から、学生も参画する双方向型の図書館運営が必要ではないか。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

- 「1.1. 運営組織」のうち、事務組織については、平成 22 年 10 月の全学的な見直しに伴い、一部名称、分担等を変更した。平成 23 年度からのアカデミック・リンク・センター設置予定に向けて更なる事務組織等の見直しが必要である。更に大局的にはアカデミック・リンク・センターと図書館のあり方を含めた運営組織全体の見直しも必要である。
- 「1.2. 専門部会」図書館専門部会は年に 2 回しか開催されていない。実質的に専門部会の必要性はあるのか。
- 「1.2. 専門部会」研究者情報管理システム検討専門部会は、各学部の同様組織との密な連携が望まれる。
- 附属図書館長がよりリーダーシップを発揮できるよう学内的位置づけを高める必要があるため、理事や副学長を兼ねる、副館長職を新設するなどの方策を検討すべきである。また、事務部の体制をより効率的・機動的な組織に再編する方向で見直した方が良い。

大項目2 予算・経費

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	(0)
B：おおむね良好である	●●●● (4)
C：やや不十分である	●●●● (4)
D：不十分である	(0)

【総評】

図書館経費の中で図書館資料費については、大学総経費に占める割合が全国平均では 0.9%前後なのに対して本学図書館は 0.7%前後を推移している。また、図書館運営費についても同上割合が全国平均では 0.9%前後に対して本学図書館は 0.6%程度に留まっている。

今般の国の厳しい財政状況を勘案すると一定の評価をせざるを得ないが、図書館機能の維持のためにも図書館資料費、図書館運営費とも全国平均に近づける努力は必要である。

図書館の業務は従来からすると多様化が進んできており、それに伴って図書館経費も増える要素はあるものの図書館の基本的な業務である学術情報資料の収集・管理の在り方や情報提供システムの在り方などについては、運営コストの削減を検討するとともに図書館自らが外部資金等を獲得する方策についても検討する必要がある。

さらには、図書館経費の確保策として、全学共通経費や競争的資金の間接経費の充当割合を増大させるなどの方策を検討するべきである。

また、図書館運営費における人件費の効率的な執行に関しては、定型的業務等の外部委託を含めた総合的・包括的な検討も必要であろう。

【評価コメント】

○大学総経費に占める図書館資料費は5年間横ばいないし微増で、この点は大学本部の努力であろうが、厳しい財政状況を勘案すると一定の評価が出来る。ただし、図書館運営費は大学総経費が増加しているにもかかわらず減少気味であり、運営費維持に向けて更なる工夫が必要であろう。

○図書館資料費に関しては大学総経費に占める割合が全国平均では0.9%前後なのに対して 0.7%前後を推移している。また、図書館運営費に関しても同上割合が全国平均 0.9%前後に対して 0.6%程度に留まっている。いずれも単純な割合比較では全国平均を下回っており、更なる予算獲得と業務合理化の努力が必要と思われる。

- 図書館資料費、図書館運営費ともに、大学総予算に占める割合が国立大学の全国平均を下回っている。
- 図書館資料費、図書館運営費ともに、国立大学との比較で、大学総経費に占める比率が低くなっている。
- 大学総経費に占める図書館資料費及び図書館運営費とも全国平均より下回っている。
- 資料費、運営費ともに大学総経費に占める割合が全国平均をやや下回っている。本館旧館を除く施設・設備の改善に向けて予算面で対応する必要がある。
- 図書館資料費の内訳では電子ジャーナル経費が全体の約 47%と大きな比重を占めており、資料費の足かせになっていることが伺える。
- 大学総経費に占める図書資料費割合が、全国平均よりも下回っているが、総合大学としての規模を考えると適切な水準であると思われる。
- 経年変化からは、ほぼ適切と思われる。
- 図書館運営費の内訳では人件費が約 70%と大部分を占めており、その他の経費を圧迫している。
- 全国的に見ても独創的かつ活発な活動を行っている図書館であるにもかかわらず、全国平均を下回る予算・経費である状態は改善されるべきである。

【改善に向けての提言】

- 図書館機能の維持のためにも大学総経費に対する図書館経費の割合を全国平均に近づける努力が必要である。
- 千葉大の図書館が、今後利用者に対してどのようなサービスを充実させたいのか（将来像）を明確にし、予算・経費の運用を検討する必要がある。
- 必要な経費を確保するためには、学長裁量経費等をこれまで以上に積極的に活用することが望まれる。
- 学内の担当部署に実績、統計的数値を示して、善処を求めると良い。
- 財源について、部局割合等開示して、適宜検討していくべきである。
- 電子ジャーナルについて、その予算割合が図書館資料費の約半分を占めていることについては、さらに検討する必要があると思われる。
- 電子書籍(ジャーナル)のさらなる積極的効率的導入による、コスト削減が望まれる。
- 図書館運営費については大学本部と交渉を粘り強く進めるのが良いのではないか。
- 大学全体の予算が厳しい折ではあるが、大学総予算に占める割合が全国平均を下回っていることは経営層に訴える必要がある。資料費では電子ジャーナル経費の増額、運営費では人件費の効率的執行を検討していくことが重要である。また予算増額の一方策として、外部資金等の獲得や活用を真剣に検討すべきである。
- 予算増額に向けた当局への働きかけは当然であるが、財政的に厳しい環境にさらされ

ている本学においてはさらに運営コストの削減や資金獲得の自助努力を行う必要がある。また、図書館予算の確保策として、全学共通経費や競争的資金の間接経費の充当割合を増大させるなどの方策を検討するべきである。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

- 電子ジャーナルに関し、国内に関しても積極的に採用を考慮してはどうか。
- 「2.2. 図書館運営費」の大部分が人件費であるが、人件費が妥当なのかどうか不明。多ければよいというものではなかろうが、サービスとの関係ではどうなのか。
- 人件費の効率的執行に関しては、定型的業務等の外部委託を含めた総合的・包括的な検討を開始すべきである。第2期中期目標期間中には図書館業務における外部委託の本格的な導入を図る必要があるだろう。

大項目3 施設・設備

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	● (1)
B：おおむね良好である	●●●●● (5)
C：やや不十分である	●● (2)
D：不十分である	(0)

【総評】

施設・設備の点検・評価で一番大きな話題は建物の増築、改築、新築であろう。千葉大学附属図書館の建物の小史は次のとおりである。

昭和 38 年園芸学部分館（現松戸分館）竣工。昭和 43 年本館旧館、竣工。昭和 46 年医学部分館（後に移転、亥鼻分館と改称）竣工。昭和 56 年本館新館、竣工。昭和 58 年園芸学部分館（現松戸分館）増築部分竣工。平成 8 年亥鼻分館新館、竣工。

このうち、附属図書館本館旧館については、昭和 43 年以来 40 年以上が経過して老朽化が著しいことと、新館部分を含めた本館の面積が大学図書館の有すべき基準面積に大きく足りなかったことと新たな機能を付加して学生の要望に応えるために 10 年以上増築の要求を続けてきた。幸い、関係者の長年の努力により平成 22、23 の 2 年度にわたる増改築が認められ本年度工事が開始された。千葉大学附属図書館にとってはまさに歴史的な出来事と言えよう。このことはまた、施設・設備の点検・評価にとっても非常に重大なポイントとなっている。実質的な増改築は来年度にまたがることとなるが、それらの工事が認められたこと自体今年度の大きな評価点となる。あとは完成した新しい施設とその中の設備を使用して利用者（特に学生）に如何に充実したサービスを提供できるかが問われることとなるだろう。

一方、本館新館も築 30 年近く経過しており新館とは呼びにくい状況となっている。分館を含めた附属図書館としての施設設備の更なる充実が今後とも望まれるところである。

【評価コメント】

○現在、本館の増改築が進行中であり大幅な改善が期待されるものの、現時点では老朽化を指摘せざるを得ない。ただし、学生の満足度調査では高い評価を受けており、不十分とする根拠はない。

○延床面積については基準面積を大幅に下回っているので増築の概算要求を行った経緯があるとのことだが、増築が完成した暁には改善される見通しである。

- 増改築に向けた取り組みは評価できる。
- 増改築に関する、全学への認知に少し課題が有る。
- 大学の規模に応じた施設は整備されていると思う。
- 閲覧座席数、収容冊数ともに全国平均に近い数値であり可もなし不可もなしという状況と思われる。
- 学生あたりの閲覧座席数及び収容冊数とも全国平均を下回る値となっている。
- 学生あたりの閲覧座席数や書架収容力が十分ではない。
- 学生数の 10%にあたる閲覧座席数は、妥当な規模であると考えられる。
- 収容冊数に関し、他の国立大学との比較において妥当である。
- 収容冊数も他大学に比して見劣りするほどではない。
- トータルとしてはおおむね良好であるとの評価ができる。
- 利用者 PC 台数については他大学との比較数値がないのでコメントしづらいが、図書館混雑時の PC 利用状況を時折みかけると非常によく利用されている。学生にとっては大切な情報取得の場であると考えられる。
- 本館においては、老朽化が進み、雨漏りなどの障害が頻発している。
- 今回の図書館改修の対象とはなっていない新館において雨漏りが頻繁に発生していると聞くので改善が必要であろう。
- 特になし。(当面はアカデミック・リンクの新設による充実がはかられる予定。)

【改善に向けての提言】

- 平成 22～23 年度に実施される本館（旧館）の改修、増築により、座席数は大幅に増加し、全国の平均値を上回ることになる。しかし書架収容力については、上記の改修、増築によっても大幅な改善は望めない。本館（新館）の改修を実現するなかでできる限りの改善を図るしかなかろう。
- 総合大学である千葉大学としては、その規模に見合う施設の整備が必要であると思われる。そのためには、学内措置や概算要求など計画的な措置が望まれる。
- 閲覧座席の意味が図書資料を読み勉強する座席とするならば、今後はコンピューターその他の電子情報閲覧機能をもつ座席として、整備拡大してゆくことが望まれる。
- できるところは電子化を積極的にすすめることにより、実質蔵書数の増加を目指したい。
- 面積や座席数については増改築の実施で改善される見込みだが、施設的には新館の改修を早急に概算要求すべきだろう。
- 増改築の適切な進行を期待したい。
- 増改築の結果を、教員、学生、他の利用者の視点から再評価し、今後の施設改善に反映できる資料を整理することが望まれる。

○増改築にあわせ図書館の将来像を提示し、そのためにどのような取り組みを行うのかを、広く利用者に発信することが必要である。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

○「3.2. 閲覧座席数」に関し、学生あたりの閲覧座席数が全国の平均値を下回っている。

○「3.3. 収容冊数」に関し、棚板延長は全国立大学の平均を上回っているものの、区分 A（8学部以上を有する国立大学）の平均を大幅に下回っている。

○「3.4. 教育用端末」の台数については、スペースから判断すると、妥当であると評価できる。

○利用者用 PC に関しては、現在でもかなり利用頻度が高い。増改築工事が完了すると利用者が大幅に増加することが見込まれるので PC の増台数も考慮する必要があるのではないだろうか。

○電子化の進展や学術情報流通の変化、また、本学の教育・研究環境を支える学術資料のコレクション構築に適合した施設・設備の充実を継続的にはかる必要がある。また、将来的には保存書庫の整備が避けられないかもしれない。

大項目4 学術情報資源

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	(0)
B：おおむね良好である	●●●●●●●● (8)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

学内の合意形成を踏まえた学術情報資源の整備が行われ、本学における教育・研究活動におおむね有効に活用されているといえる。

予算の制約があるなかで、本学における需要を踏まえて冊子体の学術図書コレクションの整備や、電子ジャーナル・電子ブックなど Web コレクションの整備をバランスよく行うことは大変困難な課題であるが、これまで本学経営層の理解のもとに安定的に学術情報資源を提供してきたことは評価できる。

特に、電子ジャーナル・電子ブックは着実に充実してきており、今後とも継続的な価格上昇等に耐えながら、費用対効果を検証しつつ、主要な学術情報資源として整備を推進する必要がある。

冊子体の図書・雑誌については、同規模大学と比較して遜色のない質量が整備されており、ある程度満足のいく状態といえよう。

なお、視聴覚資料については必ずしも充実しているとはいえない印象なので、学生等利用者の需要を計りながら利用機器とともに拡充することが望まれる。

【評価コメント】

○学術資料専門部会の審議のもとに学内の合意形成を踏まえて適切な選定及び蔵書構築がおこなわれている。

○学術情報資源の充実度の判断は難しい。

○蔵書冊数は電子化の進捗に見合った数字でよいと思うが、視聴覚資料、音声資料など、非文字資料を増やす方向が良いのではないか。

○資料(図書、雑誌)の所蔵数については、個人的に同規模国立大学を比較したところ、ほぼ平均的な数値であった。所蔵数に関してはおおむね満足できるものではないかと思われる。

○視聴覚資料に関しては、比較数値がないので断定できないが、他の国立大学や時折利用する公共図書館と比べて印象としては必ずしも多くないのではないか。

- 予算の縮減のなかで、着実に電子的資料（電子ジャーナル、電子ブック等）の整備を進めている。
- 学術的基盤を維持するために電子的資料の充実が図られている。
- 特に電子ジャーナル等の充実が注目され、教員、大学院生からの評価は高いと思われる。
- ほぼ必要な情報を、電子ジャーナル等で入手可能なのは助かる。
- 電子的資料に関しては充実していると思われる。
- 電子ジャーナルの積極的導入は評価できる。
- 電子ジャーナルタイトル数、電子ブックタイトル数が限られた予算のなかで着実に増加しており、おおむね良好であると評価できる。
- 電子ジャーナルと電子ブックについては経年変化を見ると順調に増加しており、利用環境は充実してきていると言える。
- データベースについては今後とも利用要求と利用頻度を勘案しながら導入と入れ替えを実施していくべきだろう。

【改善に向けての提言】

- 図書館の将来像とも関連するが、利用者が本当に必要とする情報が得られているか。コストに合わない導入が行われていないかなど、継続的なチェックが必要。
- 冊子体の資料については、収納スペースや利用形態を考慮しながら導入や廃棄について検討していく必要があるだろう。電子的資料は今後とも充実させる必要があると思われるので大学経営層の理解を促進し、経費の安定的な確保を図る方策を推進する必要がある。また、視聴覚資料は利用者のために利用機器とともに拡充が必要と思われる。
- 図書購入（特に学生の自主的学修を向上させるため）についての基本的姿勢を示すことが必要では。
- できるところは電子化を積極的にすすめることにより、実質蔵書数の増加を目指したい。また、電子ジャーナルのアクセス数の調査が望まれる。
- 電子ジャーナルの分野・領域の構成、導入に関する中期的な目標について、検討する必要があると思われる。
- 年々増大する電子的資料（電子ジャーナル）の予算確保が今後の課題である。
- 今後は、学術情報資源の内容を出来るだけ広範に、柔軟に捕らえたほうが良いであろう。
- 電子ジャーナルの継続的な価格上昇、高額なバックファイルの整備、また、電子ブック導入経費の拡充に計画的に対応するための検討・合意形成を継続的に進める必要がある。Web コレクションと学術図書コレクションのバランスがとれた情報資源コレクションの構築をはかるべきである。さらには、これら学術情報・資料の整備とセットで、効

果的なナビゲーションのあり方を検討することも必要であろう。

○千葉県あるいは本学にゆかりのある貴重資料、郷土資料の体系的な収集と計画的な保存・公開を進め、地域にねぎし、本学 OB から愛着の持たれる図書館にする必要がある。

大項目5 サービス

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	●●●●●● (6)
B：おおむね良好である	●● (2)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

入館者数や貸出冊数の減少については改善策を講じる必要があるが、全体的に見れば、職員が減少する中で、サービスの向上に努めており、高く評価することができる。

特に大学図書館としては学生の学修支援は重要な業務の一つであり、利用者の利便性を考慮した開館時間の設定は欠かせない。図書館職員数が減少する中、有人開館時間の延長は評価できる。また、学生の満足度調査でも良好な結果が得られている。

リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトでのパスファインダー（授業資料ナビゲータ）やポッドキャストの作成は、大学図書館として先導的な取組であり、教員・学生と連携しながら、質的、量的な充実を図り、非来館型の利用サービスを促進していることは特筆に値する。参考文献・資料の提供等での来館を促す仕組みと連動すれば、図書館利用の新たな形ができると期待される。こうした活動は、入館者数や貸出冊数の減少に対する質的な改善策ともなり、今後の大学図書館の方向性を示すものとしてたいへん高く評価できる。

蔵書検索（OPAC）等の Web サービスは、今後ますます利便性を高め、機能の充実を図る必要があるが、求められる事項のすべてが実現可能であるわけではないので、限られた資源のなかでの優先順位を明確にしながら、特徴を出す必要がある。「@千葉大リンクサービス」はそのような意味で期待が持てる。図書資料の電子化など、ますます図書館のヴァーチャル化が進行するなかで、入館者数や蔵書数、貸出冊数といった量的な指標ではなく、質的なサービス向上を目指した取組が見られることは、今後の事業展開の適切な方向性を示すものであると判断できる。

【評価コメント】

○職員数が減少しているにもかかわらず、年々増加する利用対象者に対し、開館時間を延長し、現物貸借件数の増加に対応し、さらに授業資料ナビゲータ作成科目数を増やすなど、サービスの充実、拡大に取り組んでいることは高く評価できる。

○奉仕者数は横ばいなのに対し、図書館員一人あたりの奉仕対象者数が増加傾向にある。コスト削減の努力は評価できる。

- 入館者数や貸出冊数が減少しているのが気になる。その中で、松戸分館では貸出冊数に大きな減少が認められないことは評価できる。その他のサービスは概ね良く行き届いている。
- 多様なサービス形態に取り組んでおり、高く評価できる。
- 全般的に附属図書館のサービスとしては非常に良好と評価できる。個別に見ると多少改善の余地がある項目（入館者数や貸出冊数等）もあるが、それらの項目は全国的にも減少の傾向があるものであり、千葉大学附属図書館固有の問題ではなく、時代の趨勢である可能性が高い。
- 授業期間中に土日に開館していることは学生の勉学を支える上で、大変重要であり、大いに評価できる。
- 遅くまで開館しており、利用者の利便性を高めている点は非常に評価できる。
- 今まで、利用に不都合を感じたことはない。
- 学生の満足度調査でも図書館は高い評価を受けており、良好と思われる。
- 特に評価できるのはリエゾン・ライブラリアン・プロジェクトで、図書館職員が授業資料ナビゲータやポッドキャストを教員・学生と連携協力しながら作成する事業は質、量とも他大学の嚆矢となり、今後の大学図書館の方向性を示すものと考えられるため非常に高く評価できる。
- 授業資料ナビゲータの科目数も年々増加しており、努力が認められる。
- 授業資料ナビやポッドキャストなど、授業や学習活動と連動した先進的サービスを積極的に展開している点が評価できる。
- ポッドキャスト制作を通じ、非来館型利用者へのアプローチを積極的に行っている点は評価できる。
- ポッドキャストは、教員と図書館職員との連携協力により作られており、図書館としてその積極的な取り組みは評価できる。
- ポッドキャストも次第に充実してきており、^{アットちほだい}@千葉大リンクサービス等のサービスも整備されており、評価できる。

【改善に向けての提言】

- 限られた人的資源の中で、より効果的なプログラムを制作するための工夫が必要である。
- 特に学生から頻繁に要望の出る開館時間の延長については、予算面、安全面で妥当な対応をすべきと思われる。
- 今後は、今までと同じサービスを単に継続することでよいのかは、新しいサービス形態なども含め多方面から検討する必要がある。
- 入館者数は減っているが、電子ジャーナルの導入による、図書館外からのアクセスが

容易になったことなどが挙げられるであろう。そのためにも、アクセス数の解析を併記したい。

○Web サービスの充実は時流に沿っており、今後さらなる利便性の向上が望まれる。

○教育活動と直結したサービスや学生の自学自習を支援するためのサービス体制を教員や学生の協力を得ながら整備する必要がある。学外者を含めた利用者の意見等に耳を傾けながら、開館時間のさらなる延長や各種サービスの改善に努める必要がある。また、大学の e-learning への取り組みのなかで、教材作成・整理・提供に関する協力も行う必要がある。

○サービスの費用対効果をはかるための各種統計情報の収集・分析を定期的に行い、大学の経営陣や地域社会等に示し、当館の活動状況や方向性、重要性を認識してもらう必要がある。

○新設予定のアカデミック・リンクを有効に活用して図書館機能の拡大、充実を図るとともに、それをアピールして利用者の増加を図ることが望まれる。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

○「5.1.3. 入館者数」が少しずつ減少しているのは、これは電子ジャーナル等の利用によると考えられるが、一方で特に学生を図書館に呼び込む努力も必要であり、さらなる工夫が求められる。

○「5.1.4. 貸出冊数」特に本館の貸し出し冊数が急激に落ち込んでいるのが気になる。いわゆる「図書離れ」の影響なのか、他に原因があるのか注視すべきである。

○全国的な傾向とは言え、入館者数や貸出冊数の減少は食い止めて上昇に転じさせるに越したことはない。そのための様々な工夫（例えば今年度の学生選書ツアーの実施等）を今後とも継続する必要があるだろう。

○「5.2. リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト」に関し、授業に即したパスファインダー（授業資料ナビゲータ）やポッドキャストの作成は、全国的にも先進的な取り組みであり、高く評価できる。

大項目6 情報発信・広報

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	●●●●●● (6)
B：おおむね良好である	●● (2)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

今回の9項目にわたる点検評価の中で、特に、「5. サービス」、は非常に良い評価であり、ソフト的な効果すなわち図書館運営スタッフによるきめ細やかな心遣いによる運営努力が評価されている。それを含めた各種のお知らせに相当する、本項目の「6. 情報発信・広報」も、「5. サービス」に次いで良い評価となっているが、この「6. 情報発信・広報」をより向上することにより「5. サービス」もより効果的になり、図書館全体としての性能向上につながると思われる。

具体的な情報発信・広報の方法についての評価は、以下のコメントにあるとおりだが、さらに課題があるとすれば、これらの情報にたどり着かない潜在的な図書館利用者にもどのように情報発信・広報していくかであろう。すなわち、図書館を利用しようと思えばいくらかでも利用できるのだが、普段その気がないために図書館のWebサイトや図書館関連の情報を見過ごしてしまっている方々に、図書館の存在に前向きに接してもらえるように一歩踏み出すための情報発信・広報が必要であろう。

【評価コメント】

○千葉大学附属図書館研究開発室（ライブラリー・イノベーション・センター）における研究開発活動に支えられ、図書館員による論文や口頭発表等が活発に行われ、さらに図書館関係の研修会等での講師の役割を積極的に果たしている。また、図書館主催ガイダンスの参加学生数も年々増加し、特に授業連携ガイダンスの実施回数や参加学生数が著しく増加していることは注目に値する。また、学術成果リポジトリの取り組みも先進的であり、着実にコンテンツ件数を増やしている。

○図書館からの情報発信・広報に関しては非常に良好であると評価できる。特筆すべきは「6.2. 図書館員による研究教育発表等」である。比較できる資料はないが、これまでに経験した大学図書館の状況を鑑みると講演・口頭発表、講師派遣等の図書館職員が外部で情報発信する数が非常に多い。千葉大学で実践しているサービス等の事例を広く学外に伝達していると言える。

- ライブラリー・イノベーション・センター、学術成果リポジトリ (CURATOR) をはじめ全国を先導する活動を行っている」と評価できる。
- 情報発信・広報に関しては十分な努力が認められる。
- 情報発信・広報についてはおおむね良好である。
- 多様な情報発信・広報に取り組んでいる。
- 様々な利用に対する説明会の開催など、小回りのきく対応がよい。
- 図書館主催ガイダンスでも、回数は年度により多少の増減はあるものの、参加人数が次第に増加しており、内容の充実が認められる。
- 図書館主催ガイダンス、およびその参加人数は増加しており、高く評価できる。一方で、来館者数は減少しており、ガイダンスの内容について、再考察が求められる。
- 附属図書館の Web ページの Google ページランクは千葉大学のそれと同じ(ランク 7)であり、非常に高い。Web ページの価値の高さを示すひとつの指標であり、評価できる。
- 図書館員による活発な研究教育発表がなされている。
- 図書館職員による研究教育発表、講師派遣等が着実に実施されており、大いに評価できる。
- 学術成果リポジトリも着実に増加しており、評価できる。
- 平成 21 年度の実績として、普遍教育(教養教育)科目のある授業において図書館職員が教員の授業の一部を担当するために、学内で非常勤講師の発令を受けて授業を実施したということがあった。これは来年度も継続実施の予定である。こうした活動は図書館職員の専門性を高めるための方策として継続すべき事項だろう。
- ライブラリー・イノベーション・センター(LIC)の研究開発活動や図書館職員の研究発表活動が盛んであり、学外からも一定の評価を受けている。また、研究支援サービスとしての本学学術成果リポジトリは全国にさきがけて公開されたものであり、その功績は大きい。

【改善に向けての提言】

- 今後現状の方向でさらに発展させることが望まれる。
- 今後とも、細やかな情報発信と広報を望む。
- 学術成果リポジトリの登録数の伸びが鈍化している。周知徹底が必要であろう。
- 附属図書館 Web サイトについては、トップ画面の表示の分かり難くさや更新されていない内容もあり、ユーザビリティ、アクセサビリティの観点からも改善を望む。
- CUFA・CURT については、全学的検討の中で今後のあり方を検討する必要がある。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

- 「6.1. ライブラリー・イノベーション・センター(LIC)」に関し、平成 22 年に全国の研究開発室を持つ大学図書館に呼びかけて、研究開発室協議会準備会を開催したことは高く評価できる。
- 「6.4. 学術成果リポジトリ」に関し、平成 18 年度国立大学図書館協会賞を受賞したことは高く評価できる。
- 「6.5. 図書館のホームページ」については毎年マイナーチェンジを実施しているようだが、増改築を機に大幅なリニューアルを実施してはどうか。また、電子化時代における、紙媒体による広報の更なる有効利用を図るべきではないだろうか。
- 情報発信の要となる図書館 Web サイトのデザイン、機能、コンテンツに関して見直しが望まれる。

大項目 7 地域・社会連携

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	(0)
B：おおむね良好である	●●●●●● (6)
C：やや不十分である	●● (2)
D：不十分である	(0)

【総評】

地域・社会連携全般は一定水準の活動を行っているとは評価できる。一般市民への図書館の公開により、市民の入館者数や貸出冊数は毎年一定の水準で推移している。地域社会へ一定の貢献を行っていると言える。公共図書館との連携では、平成 18 年度に締結された「千葉県立西部図書館と松戸分館の相互協力協定」を平成 22 年に「千葉県立図書館と千葉大学附属図書館との相互協力に関する協定書」に発展させたことは高く評価できる。また、千葉県内の高等学校との連携教育協定に基づき、多くの高校生にサービスを提供している。一方、附属図書館の内容や活動規模から見ると、地域・社会連携により一層の努力が望まれる。地域連携の方針が明確ではなく、積極的取り組みへの努力が数字や説明からは読みとりにくい。市民への公開や県立図書館との連携それぞれの実績もやや物足りない。図書館の人的資源に限界があり、地域・社会連携に多くの労力を割くことが出来ない現状は理解できるが、将来像を明確にしつつ、地域に開かれた図書館づくりへの工夫が必要である。

今後は、市民の入館者数・貸出冊数の横ばいについて分析し、大学図書館としての地域・社会連携のあり方について再検討することが望まれる。公共図書館等との連携を中心として、文化・資料情報資源の共有や職員の相互交流を含めてより緊密に協力を深める必要がある。地域の知的関心を充足させるような開かれた図書館を目指し、こうしたイメージに基づき、地域連携の取り組みに関してより広く広報に努めることが望まれる。また、実務的には、千葉市内や千葉県内の他大学等図書館との関連協議会での活動を強化し、推進していくことが必要である。

【評価コメント】

○地域・社会連携全般ではおおむね良好な評価と言える。一般市民への公開については、経年変化を見ると多少の増減はあるが、安定した数値を示している。図書館の公開により、地域社会へ一定の貢献を行っていると言えよう。公共図書館との連携では、平成 22 年度に千葉県立図書館と千葉大学附属図書館で相互協力協定が締結されたことは、

今後の利用増加の期待を込めて特筆すべき事項と考えられる。千葉市内や千葉県内の他大学等図書館との協力関係は、関連協議会への参加を継続しているが目立った活動は見られない。

○市民の入館者数や貸出冊数は毎年一定の水準で推移している。平成 18 年度に締結された「千葉県立西部図書館と松戸分館の相互協力協定」を平成 22 年に「千葉県立図書館と千葉大学附属図書館との相互協力に関する協定書」に発展させたことは高く評価できる。また、千葉県内の高等学校との連携教育協定に基づき、毎年 100 名を超える高校生にサービスを提供している。

○市民への公開や県立図書館との連携など、取り組み全般としては十分だと思うが、それぞれの実績はやや物足りない。

○市民への開放に関し、入館者数、貸し出し冊数とも安定した実績を残している。

○県立図書館との相互協定の締結などを通じての地域連携の強化は評価できる。

○着実に発展しているものと評価できる。

○地域・社会連携については、おおむね良好である。

○地域連携の方針が見えない。積極的に取り組もうとする努力が数字やそれ以外の部分（説明）に表れていない。最低限のことをしているとしか映らない。人的資源の課題も含め、将来像を明確にしつつ、地域に開かれた図書館づくりへの工夫が必要。

○市民への公開がやや不十分であり、その他についても特記すべき内容が希薄である。公共図書館等との連携についても、文化・資料情報資源の共有や職員の相互交流を含め、より緊密に協力を深める努力が必要である。

【改善に向けての提言】

○今後は地域連携の取り組みにかんしてより広く広報に努めることが望まれる。

○市民の入館者数・貸出冊数の横ばいについて分析し、大学図書館としての地域・社会連携のあり方について再検討することが望まれる。

○地域の知的関心を充足させるような開かれた図書館というイメージはうかがえない。県立図書館との相互協力協定の締結だけでなく、市民へのアピールが必要なのでは。

○千葉県立図書館との相互協定については、今後具体的な検討が進められることを期待する。

○千葉県立図書館との協定により、本学図書館に不足する資料（文学関係等）を利用できる体制が整ったので今後広報に努め相互利用の推進を図るべきだろう。また、県内他大学等との協力関係は維持すべきであり、千葉大学附属図書館の立場や役割を再確認した上で協議会自体の活性化を図るべきではないだろうか。

○公共図書館や専門図書館との棲み分けを前提に、市民の要望を反映した公開方策を模索する必要がある。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

○「7.1.2. 貸出冊数」は 2,000 冊をこえる数字で推移しているが、どのような本が利用されるのかというデータ分析も必要では。

大項目8 他機関図書館との連携

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	●●●●●● (6)
B：おおむね良好である	●● (2)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

国立大学図書館協会等の大学図書館関係機関を中心に、その運営、各種事業展開及び調査研究活動に深く関わり、我が国の大学図書館界の発展に寄与してきたことは高く評価できる。

特に国公立大学図書館協力委員会の委員長館として、様々な活動を通じて全国の大学図書館と緊密な連携を行ったことは大きな実績となった。

これらの協力活動が、斯界における当館の位置を高く押し上げているとともに、「6. 2. 図書館員による研究教育発表等」や当館の先進的な利用者サービスに結実していると自負してよいだろう。

今後も図書館本務とのバランスを保ちながら、関係機関の活動に能動的に関わることは重要なことであり、そのための体制の維持や人材養成を継続的にはかる必要がある。

【評価コメント】

○長年にわたり国立大学図書館協会監事、国公立大学図書館協力委員会委員長館・幹事館、日本図書館協会理事、同協会大学図書館部会部会長館・理事を歴任し、さらにこれらの協会や団体の関連委員会等に委員を派遣するなど、全国の大学図書館の発展のために多大な貢献を行ってきたことは高く評価できる。また、国立情報学研究所の最先端学術情報基盤(CSI)構築推進委託事業を平成17年度以降、継続して実施し、デジタルリポジトリ連合(DRF)の活動や運営にも積極的に取り組んでいる。

○他機関図書館との連携に関しては、全般にわたって多大な努力、協力を行っており非常に良好であると言える。特に国公立大学図書館協力委員会の委員長館期間は、様々な活動を通じて全国の大学図書館と緊密な連携を行っており、十分な貢献をしたと言える。また、千葉大学附属図書館は、国立大学図書館協会においては平成20年度まで長年にわたって監事を務めており同協会の運営に貢献してきたと言える。更に、国立情報学研究所とはCSI委託事業を通じて協力関係を構築しておりその貢献は評価できる。DRF関連では設立当初から深く関わっており、その運営に現在でも協力を行っている。

今後の DRF の発展にも寄与することが期待される。

- 国立大学図書館協会における、また国立情報学研究所との連携等による活動は全国を先導するものであると評価できる。
- 取り組みとして十分と判断される。
- 他機関と十分な協力体制が取られている。
- 特記することはない。十分に役割を果たしていると認められる。
- 国立大学図書館協会などの活動に積極的に関与し、協会の維持・発展に多大な貢献をしてきたことは評価できる。
- 国大図協の監事等、関係団体の中心的メンバーとして活動し、大学図書館界に貢献した功績は大きい。

【改善に向けての提言】

- 今後も国立大学図書館協会などの活動に参加していくことは重要なことであるが、本学図書館での本務とのバランスが保たれるよう留意する必要がある。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

- 国立大学図書館協会関連の活動（国公立大学図書館協力委員会、日本図書館協会、学術情報流通改革検討特別委員会等）を基本として更に他機関図書館との連携を深め、大学図書館界への貢献を推進することが望ましい。

大項目9 各館特記

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	●●●● (4)
B：おおむね良好である	●●●● (4)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

本館においては各年7回にも及ぶ図書館所蔵の資料展、学内外との連携を含む各種企画展が意欲的に開催されている。亥鼻分館においては「古医書コレクション」、松戸分館においては「江戸・明治期園芸書コレクション」といずれも貴重資料の電子化が進められている。これらはキャンパスの特色が良く表れた全国有数の資料であり、情報発信、社会貢献として、学内外の期待、評価も高いと考えられる。今後、予算の確保に基づく事業の継続が望まれる。また、展示に関しては、企画、制作において学内の関係者や地域、他機関等学外との一層の連携を図ることにより発展が期待される。

【評価コメント】

- 本館においては毎年数回にわたって展示を実施している。亥鼻分館においては「古医書コレクション」の電子化、松戸分館においては「江戸・明治期園芸書コレクション」の電子化等、特色ある取り組みを行っている。
- 各館の特徴を活かした企画等により、図書館資料の活用・公開がはかられ、市民や本学構成員に千葉大学や各館の存在意義の一端を示すことができている。
- 展示、電子化、学外協力等、各館の特色を生かした活動が行われていると評価できる。
- 本館、両分館ともに特色を生かした活動で、評価できる。
- キャンパスの特色にふさわしい企画が実施されており、評価できる。
- 亥鼻分館及び松戸分館におけるコレクションの電子化は非常に重要な取り組みである。
- 各館特記については、展示と資料電子化の話題となっており、開催や電子化の努力が伺える。亥鼻分館と松戸分館の資料電子化に関しては、いずれも特色のある貴重資料が対象となっており、有効に利用されていると推察される。いずれにしろ、情報発信や社会貢献の意味合いからこれらの事業は継続的に実施する努力をすべきと考える。

【改善に向けての提言】

- 今後は、3館相互の連携をより強め、特色ある企画を時期に応じて3箇所いずれでも開催できるようにすることが良いであろう。
- 千葉県及び千葉市との協議会などの枠組みを生かし、展示サービスや図書館講演会を開催できると面白い。
- 展示については、できればアンケート結果等によるリフレクションが必要である。
- 展示にしろ資料電子化にしろ、人手と費用がかかる問題である。いずれも余裕のない現状ではその資源をひねり出し、あるいは獲得する努力が図書館として必要である。

【その他中項目に対する評価・提言・コメント等】

- 企画展示などは、当該館が単独で行うのではなく、できるだけ本学学生・地域・他機関と連携したかたちで行うことが望ましい。

大項目 10 総括

段階評価	評価者数
A：非常に良好である	●● (2)
B：おおむね良好である	●●●●●● (6)
C：やや不十分である	(0)
D：不十分である	(0)

【総評】

予算や人員の削減にもかかわらず、学習支援や学術情報提供を含む質の高い利用者サービスを展開している。さらに附属図書館研究開発室と連携して、図書館員による成果発信や学術成果リポジトリの構築・運用などの事業に先導的に取り組み、また他機関図書館との連携も十分に行われている。

その一方で、今後はより効率的な運営に努め、施設・設備の改善や学術情報資源の整備に取り組むことが求められる。また、いわゆる PDCA サイクルを確立していくことが今後の運営にとって重要であり、IT 化の進展の下での利用者サービスのあり方を含め、図書館のあるべき将来像について検討する必要がある。

【評価・提言】

○予算や人員の削減の中で、サービスの質や量を維持するにとどまらず、授業資料ナビゲータの作成、学術成果リポジトリの取り組みなど、先進的な活動を推進している。このたび全学の協力を得て、本館（旧館）の増改築およびアカデミック・リンクが実現できる運びとなったのは、こうした長年にわたる努力の賜物と言える。さらに、職員による論文発表や口頭発表、講師活動なども活発に行われ、大学図書館関係の諸団体において要職を歴任するなど、大学図書館界の発展のために多大な貢献を行ってきた。利用者、とりわけ学生のニーズをいかに把握し、それに応えていくかが今後の課題であろう。

○今回の 9 項目にわたる点検評価では、平均すると、「B おおむね良好である」相当であり、悪くはない評価であるといえる。特に、「5. サービス」は非常に良い評価であり、ソフト的な効果すなわち図書館運営スタッフによるきめ細やかな心遣いによる運営努力が評価されている。ただし、そのお知らせに相当する、「6. 情報発信・広報」はもう少し行った方がよりサービスが効果的になると思われる。しかしながら、以上の「5. サービス」、「6. 情報発信・広報」の 2 つ以外は、これらに比べるとやや評価が低く、やはりハード的な設備、組織的な構造等は、急に変更が効くものではないため、今後時間

をかけて向上していく課題であろう。

○本館の増改築が始まろうとしている。IT 化が進み、図書館に足を運ばなくても研究室にしながら、図書や学術雑誌など様々な情報を入手することが可能になってきている。この先も、更に多様な利用形態の変化が進むものと考えられる。このような流れの中で、千葉大学の図書館は利用者にとって、今後どのような位置づけになるのか。サービスのあり方を含め、そのあるべき将来像について広く検討し、理解して貰う必要がある。

○管理運営は実質的に良く機能し、増改築やそれに伴うソフト面の強化等の中長期計画も着実に進んでいる。限られた予算の中で、利用者からも評価の高いサービス、資料提供を行っている。図書館研究開発室と連携した図書館員による成果発信、千葉大学の学術成果発信のためのリポジトリの構築・運用等は全国を先導している。国立大学図書館協会、国立情報学研究所等との連携による全国的貢献も特筆に値する。学外・地域協力、展示、資料電子化等、本館分館各館の特色を生かした活動も良好である。

○サービス、情報発信・広報、他機関図書館との連携など、外部発信活動は非常に良好で、高く評価できる。職員数が減少しているにもかかわらずサービスの充実、拡大に取り組んでいる。図書館員による論文や口頭発表、研修会等での講師を積極的に行っている。図書館主催ガイダンスの実施回数や参加学生数が著しく増加していることは注目に値する。また、管理運営に関しても、情報化推進企画室の下に設置された各専門部会における審議や検討に基づいて、おおむね適切に行われている。一方、予算・経費や施設・設備については、大学を巡る厳しい状況を勘案するとかなりの努力が伺えるが、運営費維持や施設・設備の改善に向けて更なる工夫が必要であろう。図書館の要というべき学術情報資源に関しては、一定水準にはあると思われるが、電子的資料の将来的取り扱いを中心として、さらに高い水準を目指して、いっそうの努力が望まれる。

○職員数が減少する中、サービスや情報発信・広報での活動の充実は特筆すべきであり、高く評価できる。授業資料ナビやポッドキャストなど、学生の学習に直結するサービス提供は大学図書館の業務として重要であり、今後のアカデミック・リンクでの応用が期待できる。また、大学図書館としての研究活動にも積極的な取り組みが認められ、学術成果リポジトリ公開も先導的な役割を果たしている。確かに予算面での制約は図書館の努力だけではいかんともしがたい面があるが、利用者数増加や収蔵図書(学術情報資源)選定の質的改善など、まだ工夫すべき点も見受けられる。

○千葉大学をはじめ国立大学を取り巻く環境の変化が著しく変動する中で、本学の附属図書館は第 1 期中期目標・計画の達成においても十分な成果を挙げてきたと言える。

○今回の自己点検・評価において、高く評価された点についてはより一層充実させていきたいし、客観的に指摘された点については、附属図書館は真摯に受け止め、今後速やかに改善を図る必要がある。その中で改善のための計画を立て、実行し、点検・評価し、新たな計画につなげていく PDCA サイクルをしっかりと回していくことが今後の図書館運営において重要なことである。

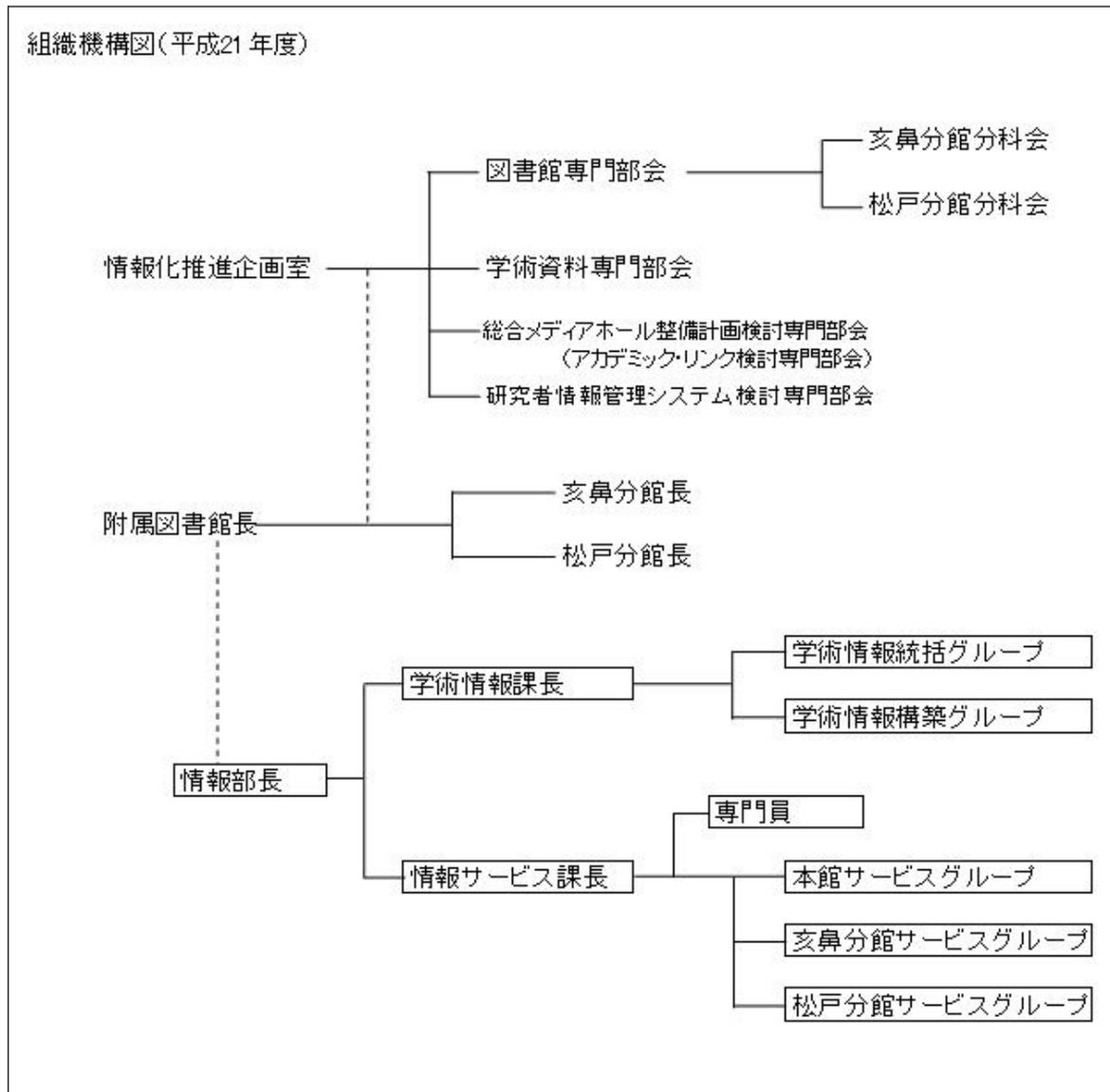
○利用者サービスが多様化・高度化するなかで、限られた職員数・予算によって先進的で効果的なサービスを行っている点が特徴であり高く評価できる。附属図書館における研究開発機能とそれを実践する学習支援機能や情報提供機能が利用者サービスの基盤をなしており、アカデミック・リンク構想に発展したと言える。一方において、地域社会との連携や地域資料の整備についてはいささか不十分な面も見受けられ、将来的にもアカデミック・リンクと対称的な位置に埋没してしまう危惧がある。今後取り組むべき課題は多いが、概ね年度計画等に沿って目標を達成したと言えるのではないだろうか。

○千葉大学附属図書館の諸活動は「B おおむね良好である」と評価できる。「5. サービス」、「6. 情報発信・広報」、「8. 他機関図書館との連携」などは「A 非常に良好である」と評価出来るがその他の項目に関してはBまたはCの評価と見なされる。A 評価の良い点を拡充・強化することによって、今後の更なる発展を期待する。また、概算要求が認められて設置する「アカデミック・リンク」については新たな施設内での図書館機能との融合進展による大学図書館のあるべき姿の実現を望む。

(付録) 評価用資料集

1. 管理運営

1.1. 運営組織



1.2. 専門部会

平成18年9月に「附属図書館運営委員会」が廃止され、
情報化推進企画室の下に「図書館専門部会」と「学術資料専門部会」が設置された

活動状況

開催日	
平成21. 5. 12	図書館専門部会
平成22. 3. 30	図書館専門部会
平成19. 2. 16	学術資料専門部会
平成19. 6. 12	学術資料専門部会
平成19. 7. 6	学術資料専門部会
平成19. 9. 18	学術資料専門部会
平成19. 11. 21	学術資料専門部会
平成20. 12. 25	学術資料専門部会
平成22. 3. 30	学術資料専門部会

総合メディアホール(仮称)整備計画検討専門部会活動状況
(平成22年3月29日アカデミック・リンク検討専門部会に移行)

開催日	
平成21. 5. 27	第1回メディアホールWG
平成21. 5. 27	第2回メディアホールWG
平成21. 6. 9	第3回メディアホールWG
平成21. 6. 18	第4回メディアホールWG
平成22. 3. 5	第1回アカデミック・リンク検討専門部会準備会
平成22. 3. 15	第2回アカデミック・リンク検討専門部会準備会

研究者情報管理システム検討専門部会活動状況

開催日	
平成21. 10. 28	研究者情報管理システム専門部会

(参考)

<p style="text-align: center;">○国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書専門委員会内規 平成18年8月1日 制定</p> <p>(目的) 第1条 この内規は、国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書専門委員会の設置に基いて、千葉大学情報化推進本部図書専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。</p> <p>(組織事項) 第2条 専門委員会は、次に掲げる事項について審議する。 一 全学的な図書サービスに関すること。 二 情報化推進本部からの付託事項に関すること。</p> <p>(組織) 第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 一 附属図書館長 二 附属図書館学芸部長及び学芸分隊長 三 総合メディア基盤センター長 四 文学部、教育学部、法経学部、看護学部(教育学研究科を除く)、看護学院、看護教育センター及び国際教育センターから選出された教職員の者 五 学生部長 六 事務部長 七 その他専門委員会が必要と認めた者 第4条 前項第4号及び第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期期間とする。</p> <p>(主席) 第5条 専門委員会に主席を置き、附属図書館長をもって充てる。 第6条 主席は、必要に応じて専門委員会を招集し、その議長となる。 第7条 主席に事があるときは、主席があらかじめ指名した代替員が、その職務を行う。</p> <p>(委員以外の出席) 第8条 主席は、必要と認めるときは、委員以外の者を含む出席させることができる。</p> <p>(分科会) 第9条 専門委員会に、分科会を設置し、必要とする付託事項を置くことができる。 第10条 分科会に關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(事務) 第11条 専門委員会の事務は、附属図書館情報部に置いて処理する。</p> <p>(総則) 第12条 この内規に定めるもののほか、専門委員会に關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>附 則 この内規は、平成18年8月1日から施行する。 附 則 この内規は、平成18年4月1日から施行する。 附 則 この内規は、平成18年4月1日から施行する。</p>	<p style="text-align: center;">国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書・リンク部専門委員会内規 平成18年8月8日 制定</p> <p>(目的) 第1条 この内規は国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書・リンク部の設置に基いて、千葉大学情報化推進本部図書・リンク部専門委員会(以下、「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。</p> <p>(組織事項) 第2条 専門委員会は、次に掲げる事項について審議する。 一 情報化推進本部からの付託事項を中核とする、図書館業務に關した事項であること。 二 アカデミック・リンクの推進に關しての事項。</p> <p>(組織) 第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 一 情報化推進本部の長 二 附属図書館学芸部長及び学芸分隊長 三 総合メディア基盤センターから選出された者 四 看護教育センターから選出された者 五 情報部長 六 その他専門委員会が必要と認めた者 第4条 前項第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期期間とする。</p> <p>(主席) 第5条 専門委員会に主席を置き、情報部長をもって充てる。 第6条 主席は、必要に応じて専門委員会を招集し、その議長となる。 第7条 主席に事があるときは、主席があらかじめ指名した代替員がその職務を代行する。 第8条 主席は、必要と認めるときは、委員以外の者を含む出席させることができる。(ローキックグループ) 第9条 専門委員会に、必要に応じてローキックグループを置くことができる。 第10条 ローキックグループに關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(事務) 第11条 専門委員会の事務は、情報部学芸情報部に置いて処理する。</p> <p>(総則) 第12条 この内規に定めるもののほか、専門委員会に關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>附 則 1. 「国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書・リンク部専門委員会内規」(平成18年7月20日制定)は、廃止する。 2. この内規は、平成18年8月29日から施行する。</p>
<p style="text-align: center;">○国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書学芸科専門委員会内規 平成18年8月1日 制定</p> <p>(目的) 第1条 この内規は、国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書学芸科専門委員会の設置に基いて、千葉大学情報化推進本部図書学芸科専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に關し、必要な事項を定める。</p> <p>(組織事項) 第2条 専門委員会は、次に掲げる事項について審議する。 一 全学にわたる学芸資料の整備、活用に関すること。 二 全学にわたる学芸情報業務に関すること。 三 情報化推進本部からの付託事項に関すること。</p> <p>(組織) 第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 一 附属図書館長 二 附属図書館学芸部長及び学芸分隊長 三 総合メディア基盤センター長 四 文学部、教育学部、法経学部、看護学部(教育学研究科を除く)及び看護学院、看護教育センターから選出された教職員の者 五 情報部長 六 その他専門委員会が必要と認めた者 第4条 前項第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期期間とする。</p> <p>(主席) 第5条 専門委員会に主席を置き、附属図書館長をもって充てる。 第6条 主席は、必要に応じて専門委員会を招集し、その議長となる。 第7条 主席に事があるときは、主席があらかじめ指名した代替員が、その職務を行う。</p> <p>(委員以外の出席) 第8条 主席は、必要と認めるときは、委員以外の者を含む出席させることができる。</p> <p>(分科会) 第9条 専門委員会に、専門分科会を設置し、必要とする付託事項を置くことができる。 第10条 分科会に關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(事務) 第11条 専門委員会の事務は、附属図書館情報部に置いて処理する。</p> <p>(総則) 第12条 この内規に定めるもののほか、専門委員会に關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>附 則 この内規は、平成18年8月1日から施行する。 附 則 この内規は、平成18年4月1日から施行する。 附 則 この内規は、平成18年4月1日から施行する。</p>	<p style="text-align: center;">○国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書学芸科情報管理システム課専門委員会内規 平成18年8月4日 制定</p> <p>(目的) 第1条 この内規は、国立大学法人千葉大学情報化推進本部図書学芸科情報管理システム課専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に關し、必要な事項を定める。</p> <p>(組織事項) 第2条 専門委員会は、次に掲げる事項について審議する。 一 学芸情報管理システムの内規及びその運用に關すること。 二 学芸情報管理システムのサービス提供方法に關すること。 三 情報化推進本部からの付託事項に關すること。</p> <p>(組織) 第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 一 情報化推進本部学芸課の長 二 学芸分隊長 三 情報部長 四 その他専門委員会が必要と認めた者 第4条 前項第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の任期期間とする。</p> <p>(主席) 第5条 専門委員会に主席を置き、学芸課長(学芸分隊長)から情報化推進本部学芸課の長をもって充てる。 第6条 主席は、必要に応じて専門委員会を招集し、その議長となる。 第7条 主席に事があるときは、主席があらかじめ指名した代替員が、その職務を行う。</p> <p>(委員以外の出席) 第8条 主席は、必要と認めるときは、委員以外の者を含む出席させることができる。</p> <p>(ローキックグループ) 第9条 専門委員会に、必要に応じてローキックグループを置くことができる。 第10条 ローキックグループに關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(事務) 第11条 専門委員会の事務は、附属図書館情報部に置いて処理する。</p> <p>(総則) 第12条 この内規に定めるもののほか、専門委員会に關し必要な事項は、別に定める。</p> <p>附 則 1. 本内規は、学芸課の設置に關わらず、平成18年8月に制定された当該委員の任期は、平成18年8月4日とする。 2. この内規は、平成18年8月4日から施行する。</p>

(千葉大学規程集 http://www.chiba-u.ac.jp/general/about/reiki_int/reiki_menu.html 参照)

1.3. 概算要求関係

○経緯

平成 8 年度に亥鼻分館新営が実現したが、それ以前から附属図書館の概算要求としての次の大きな目標は本館(旧館)の増改築であった。平成 11 年度には総合メディアホール(仮称)として現在の要求の原型が作られた。その後毎年施設整備費として概算要求を続けたが、学内順位があがらず実現していなかった。ちなみに、平成 18 年度は学内順位 8 位、平成 19 年度、20 年度はともに 5 位であった。

○進展

しかしながら、平成 20 年度には要求の過程で学内的にいくつかの大きな動きがあった。ひとつは、研究担当理事が室長を務める情報化推進企画室の下に総合メディアホール整備計画検討専門部会が設置(7 月 22 日部会内規制定)され、総合メディアホール(仮称)の整備計画について学内での認知度を高めるために本格的に検討が開始されたことがあげられる。もうひとつは、その検討過程で施設環境部との定期的な打合せが開催されたことである。このことにより施設環境部に総合メディアホール(仮称)整備の重要性が認識され、大きな協力を得ることができた。三つめとしては、こうした検討の結果による総合メディアホールの必要性・重要性を年度末に学長や理事、部局長などに説明する機会が得られたことである。

これらの活動によって附属図書館増改築の概算要求は、学生への学習・教育支援を中心とした三つのセンター機能を持った総合メディアホール(仮称)整備計画として具現化する素地が作られることとなった。

○現状

更に、平成 21 年度には上記専門部会の下に設置されたワーキンググループで概算要求の検討を重ね、関連諸会議、役員会報告、理事説明、学長説明などを経て学内理解を得た上で学内順位 1 位で文部科学省に要求を提出することができた。上記専門部会はアカデミック・リンク検討専門部会の名称に改組し、引き続き設備関係の要求についても検討を継続している。施設要求(耐震改修と増築)については、ほぼ要求通りの面積が概算要求として認められ平成 22、23 年度の 2 年度にわたって工事が行われる予定である。附属図書館としては長年の目標が実現することとなった。

2. 予算経費

2.1. 図書館資料費

図書館資料費の内訳平成20年度実績本・分館合計(千円未満四捨五入)

図書			61,657 千円
	和		36,897 千円
	洋		24,760 千円
雑誌			105,940 千円
	和		24,644 千円
	洋		81,296 千円
電子 ジャーナル	出版社	国内	0 千円
		国外	196,560 千円
		計	196,560 千円
	その他	国内	0 千円
		国外	0 千円
		計	0 千円
	計	国内	0 千円
		国外	196,560 千円
	計	196,560 千円	
その他			57,604 千円
図書館資料費(合計)			421,761 千円

図書館資料費の経年変化

(単位:千円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
大学総経費	45,532,051	58,381,828	50,109,086	50,233,724	52,535,789
本館資料費	292,705	283,109	285,716	295,560	352,493
亥鼻分館資料費	65,997	58,901	60,568	57,297	58,369
松戸分館資料費	21,957	15,679	12,513	12,369	10,899
(本分館合計)	380,659	357,689	358,797	365,226	421,761
大学総経費に占める図書館資料費の割合	0.8%	0.6%	0.7%	0.7%	0.8%
大学総経費に占める図書館資料費の割合 全国平均(国立大学)	1.0%	0.8%	0.9%	0.9%	0.9%

学術情報基盤実態調査データによる

2.2. 図書館運営費

図書館・室運営費の内訳平成20年度実績本・分館合計(千円未満四捨五入)

人件費	221,556 千円
その他の経費	92,712 千円
図書館・室運営費(合計)	314,268 千円

図書館運営費の経年変化

(単位:千円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
大学総経費	45,532,051	58,381,828	50,109,086	50,233,724	52,535,789
本館運営費	285,471	275,400	231,411	224,514	222,721
亥鼻分館運営費	62,578	57,355	60,213	64,636	67,306
松戸分館運営費	29,081	24,371	25,784	20,469	24,241
(本分館合計)	377,140	357,126	317,408	309,619	314,268
大学総経費に占める図書館運営費の割合	0.8%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%
大学総経費に占める図書館運営費の割合 全国平均(国立大学)	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%	0.8%

学術情報基盤実態調査データによる

3. 施設

3.1. 延床面積と閲覧座席数

図書館・室名	施設	
	延床面積 (㎡)	閲覧 座席数
本館	9,597	1,213
亥鼻分館	3,784	259
松戸分館	1,009	128
大学総合計	14,390	1,600

大学情報データベース達成状況判定用 入力データ集2009年度(平成21年度)による

附属図書館本館の旧館(RC3F 4,427 ㎡)昭和 43 年竣工

同新館(RC4F 5,170 ㎡)昭和 56 年竣工

医学部分館(1,128 ㎡) 昭和 46 年竣工

亥鼻分館新館(RC3-1 3,784 ㎡)平成 8 年竣工

園芸学部分館(現松戸分館)昭和 38 年竣工

園芸学部分館(現松戸分館)増築部分(565 ㎡ 計 1,009 ㎡) 昭和 58 年竣工

3.2. 学生あたりの閲覧座席数

学生数	閲覧 座席数	学生あたりの 閲覧座席数
14,483	1,600	0.11

全国分布	
中央値	0.12
平均値	0.12
標準偏差	0.03
入力数	86

指標の定義(計算式)

学生あたりの閲覧座席数 = 座席数 / 全学生数

大学情報データベース 達成状況判定用 データ分析集2009年度(平成21年度)による

3.3. 収容冊数

	棚板延長 (m)	収容冊数 (冊)
本館	26,566	737,944
亥鼻分館	9,598	266,611
松戸分館	3,199	88,861
合計	39,363	1,093,416

注) 収容可能冊数は〔棚板延長 (m) ÷ 0.9 × 25〕の式により算出されている(1段に25冊)

平成21年度学術情報基盤実態調査提出データによる

(参考)

平成21年度学術情報基盤実態調査結果報告2-2
書架収容力

区分	書架収容力	
	棚板延長	収容可能冊数
(国立大学)	m	冊
A	1,828,912	50,803,108
B	507,716	14,103,222
C	562,694	15,630,387
D	354,257	9,840,471
計	3,253,579	90,377,188
1 大学平均	37,832	1,050,898

(棚板延長の平均) (m)	
(区分A)	$1,828,912 \div 18 = 101,606$
(区分B)	$507,716 \div 17 = 29,865$
(区分C)	$562,694 \div 25 = 22,507$
(区分D)	$354,257 \div 26 = 13,265$

区分A: 8学部以上 (18校)
区分B: 5~7学部 (17校)
区分C: 2~4学部 (25校)
区分D: 単科大学 (26校)

3.4. 利用者用 PC 台数

	台数
本館	73
亥鼻分館	36
松戸分館	8
合計	117

(平成 21 年 3 月末日現在)

本館の台数のうち 50 台は教育用端末である。

また, CALL(語学学習用)5 台は含まれない。

本館の内訳は次のとおり。

教育用端末 50 台(1階 33 台 2階 17 台),

OPAC 用端末 15 台, 情報検索用端末 8 台

亥鼻分館の内訳は次のとおり

OPAC 用端末 1 台, 情報検索用端末 15 台,

情報リテラシー教育用ノートパソコン 20 台 (平成 22 年 3 月更新)

松戸分館の内訳は次のとおり

OPAC 用端末 4 台, 情報検索用端末 4 台

4. 学術情報資源

4.1. 所蔵資料

	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
蔵書冊数	1,055,022	246,078	99,781	1,400,881
図書受入冊数	11,682	2,589	505	14,786
雑誌所蔵タイトル数	16,975	4,968	3,459	25,402
雑誌受入タイトル数	5,609	1,250	741	7,600
新聞受入タイトル数	22	14	12	48
視聴覚資料タイトル数(CD,DVD,ビデオ)	1,923	707	230	2,860

視聴覚資料タイトル数内訳	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
CD	248	13	22	283
DVD	459	91	29	579
ビデオ	1,216	603	179	1,998
視聴覚資料タイトル数合計	1,923	707	230	2,860

2010年度日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる(平成21年度実績)
(視聴覚資料タイトル数のみ隔年調査につき平成20年度実績)

4.2. 電子的資料(電子ジャーナル・電子ブック・データベース)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用可能な電子ジャーナル タイトル数	8,063	8,976	9,558	16,066*	13,001	13,369
利用可能な電子ブック タイトル数	—	—	2,423	2,620	2,967	6,007

※平成19年度は本来集計対象外の無料公開タイトルが約3,000タイトル含まれている。

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)等による

契約データベース(平成22年3月末現在)

- ・ヨミダス
- ・聞蔵Ⅱ
- ・医学中央雑誌
- ・ルーラル電子図書館
- ・Biography Resource Center
- ・CINAHL
- ・CiNii
- ・Cochrane
- ・EBSCOhost
- ・INIS Database
- ・Journal Citation Report
- ・Lexis.com
- ・LEX/DB
- ・MathSciNet
- ・MEDLINE
- ・MLA Directory of Periodicals
- ・MLA International Bibliography
- ・RefWorks
- ・SciFinder Web
- ・Scopus
- ・Who's Who

5. サービス

5.1. サービス全般

5.1.1. 利用対象者数(教職員数・学生数)

(平成21年5月1日現在, 単位: 人)

学生数	14,483
-----	--------

(学部・大学院合計)

聴講生等数	571
-------	-----

(学生数と聴講生等数の合計15,054)

(単位: 人)

教職員数	専任	非常勤その他	計
教員数	1,317	983	2,300
職員数	1,478	1,118	2,596

(合計4,896)

大学構成調査票による

(単位: 人)

本・分館別奉仕対象数	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
学生	11,852	1,892	1,310	15,054
教職員	2,295	2,327	274	4,896
計	14,147	4,219	1,584	19,950

(単位: 人)

本・分館別図書館職員の構成	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	
専任	専従職員	17	4	2	23
	兼務職員	1			1
非専任	非常勤職員	16	7	2	25
	臨時職員				
派遣職員等	2			2	
計	36	11	4	51	

2009年日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる

(単位: 人)

(平成21年度)	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
図書館職員1人あたりの奉仕対象数	393.0	383.5	396.0	391.2

(経年変化比較用追加 2008・2007 両年度分)

<p>5.1.1. 利用対象者数(教職員数・学生数) 2008</p> <p>〈平成20年度の日常利用開始(人)〉 <table border="1"> <tr><td>学生数</td><td>14,850</td></tr> <tr><td>(学部・大学総合計)</td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: right;">■ 留学生数 1 048 (学生数と留学生数との合計10,000)</p> <p style="text-align: center;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>教職員数</th><th>専任</th><th>非常勤の割合</th><th>計</th></tr> <tr><td>教員数</td><td>1,269</td><td>793</td><td>2,062</td></tr> <tr><td>職員数</td><td>1,414</td><td>1,038</td><td>2,452</td></tr> <tr><td colspan="4" style="text-align: right;">(合計4,514)</td></tr> </table> <p>大学構成調査による</p> <p style="text-align: right;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>全・分館別専任の人数</th><th>本館</th><th>亥鼻分館</th><th>松戸分館</th><th>合計</th></tr> <tr><td>学生</td><td>12,059</td><td>1,729</td><td>1,062</td><td>15,050</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>2,110</td><td>2,228</td><td>295</td><td>4,633</td></tr> <tr><td>計</td><td>14,169</td><td>3,957</td><td>1,357</td><td>19,483</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>全・分館別の非専任の構成</th><th>本館</th><th>亥鼻分館</th><th>松戸分館</th><th>合計</th></tr> <tr><td>専任</td><td>14</td><td>4</td><td>3</td><td>21</td></tr> <tr><td>非常勤</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>非専任</td><td>21.7</td><td>4.8</td><td>1</td><td>27.5</td></tr> <tr><td>非常勤職員</td><td>0.8</td><td>3.8</td><td>0.0</td><td>4.6</td></tr> <tr><td>学生職員等</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>計</td><td>28.5</td><td>11.6</td><td>4.0</td><td>44.1</td></tr> </table> <p>〔全学共通編目・編目標準の121.7%の編目標準1,000冊を1人と換算した数値による〕</p> <p>2008年日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる</p> <p style="text-align: right;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>(平成20年度)</th><th>本館</th><th>亥鼻分館</th><th>松戸分館</th><th>合計</th></tr> <tr><td>図書館1人当たりの専任人数</td><td>369.7</td><td>341.4</td><td>339.8</td><td>353.5</td></tr> </table> </p>	学生数	14,850	(学部・大学総合計)		教職員数	専任	非常勤の割合	計	教員数	1,269	793	2,062	職員数	1,414	1,038	2,452	(合計4,514)				全・分館別専任の人数	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	学生	12,059	1,729	1,062	15,050	教職員	2,110	2,228	295	4,633	計	14,169	3,957	1,357	19,483	全・分館別の非専任の構成	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	専任	14	4	3	21	非常勤	1	1		2	非専任	21.7	4.8	1	27.5	非常勤職員	0.8	3.8	0.0	4.6	学生職員等	2			2	計	28.5	11.6	4.0	44.1	(平成20年度)	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	図書館1人当たりの専任人数	369.7	341.4	339.8	353.5	<p>5.1.1. 利用対象者数(教職員数・学生数) 2007</p> <p>〈平成19年度の日常利用開始(人)〉 <table border="1"> <tr><td>学生数</td><td>14,850</td></tr> <tr><td>(学部・大学総合計)</td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: right;">■ 留学生数 1 540 (学生数と留学生数との合計10,000)</p> <p style="text-align: center;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>教職員数</th><th>専任</th><th>非常勤の割合</th><th>計</th></tr> <tr><td>教員数</td><td>1,221</td><td>761</td><td>1,982</td></tr> <tr><td>職員数</td><td>1,229</td><td>351</td><td>1,580</td></tr> <tr><td colspan="4" style="text-align: right;">(合計3,562)</td></tr> </table> <p>大学構成調査による</p> <p style="text-align: right;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>全・分館別専任の人数</th><th>本館</th><th>亥鼻分館</th><th>松戸分館</th><th>合計</th></tr> <tr><td>学生</td><td>11,835</td><td>1,836</td><td>1,235</td><td>14,906</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>2,064</td><td>2,068</td><td>296</td><td>4,428</td></tr> <tr><td>計</td><td>13,899</td><td>3,904</td><td>1,531</td><td>19,334</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>全・分館別の非専任の構成</th><th>本館</th><th>亥鼻分館</th><th>松戸分館</th><th>合計</th></tr> <tr><td>専任</td><td>18</td><td>4</td><td>8</td><td>30</td></tr> <tr><td>非常勤</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>非専任</td><td>23.9</td><td>6.0</td><td>1</td><td>30.9</td></tr> <tr><td>非常勤職員</td><td>0.7</td><td>3.0</td><td>0.0</td><td>3.7</td></tr> <tr><td>学生職員等</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>計</td><td>28.6</td><td>11.0</td><td>4.0</td><td>43.6</td></tr> </table> <p>〔全学共通編目・編目標準の120.8%の編目標準1,000冊を1人と換算した数値による〕</p> <p>2007年日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる</p> <p style="text-align: right;">〈単位:人〉</p> <table border="1"> <tr><th>(平成19年度)</th><th>本館</th><th>亥鼻分館</th><th>松戸分館</th><th>合計</th></tr> <tr><td>図書館1人当たりの専任人数</td><td>364.0</td><td>343.4</td><td>330.7</td><td>346.0</td></tr> </table> </p>	学生数	14,850	(学部・大学総合計)		教職員数	専任	非常勤の割合	計	教員数	1,221	761	1,982	職員数	1,229	351	1,580	(合計3,562)				全・分館別専任の人数	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	学生	11,835	1,836	1,235	14,906	教職員	2,064	2,068	296	4,428	計	13,899	3,904	1,531	19,334	全・分館別の非専任の構成	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	専任	18	4	8	30	非常勤	1	1		2	非専任	23.9	6.0	1	30.9	非常勤職員	0.7	3.0	0.0	3.7	学生職員等	2			2	計	28.6	11.0	4.0	43.6	(平成19年度)	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計	図書館1人当たりの専任人数	364.0	343.4	330.7	346.0
学生数	14,850																																																																																																																																																																										
(学部・大学総合計)																																																																																																																																																																											
教職員数	専任	非常勤の割合	計																																																																																																																																																																								
教員数	1,269	793	2,062																																																																																																																																																																								
職員数	1,414	1,038	2,452																																																																																																																																																																								
(合計4,514)																																																																																																																																																																											
全・分館別専任の人数	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計																																																																																																																																																																							
学生	12,059	1,729	1,062	15,050																																																																																																																																																																							
教職員	2,110	2,228	295	4,633																																																																																																																																																																							
計	14,169	3,957	1,357	19,483																																																																																																																																																																							
全・分館別の非専任の構成	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計																																																																																																																																																																							
専任	14	4	3	21																																																																																																																																																																							
非常勤	1	1		2																																																																																																																																																																							
非専任	21.7	4.8	1	27.5																																																																																																																																																																							
非常勤職員	0.8	3.8	0.0	4.6																																																																																																																																																																							
学生職員等	2			2																																																																																																																																																																							
計	28.5	11.6	4.0	44.1																																																																																																																																																																							
(平成20年度)	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計																																																																																																																																																																							
図書館1人当たりの専任人数	369.7	341.4	339.8	353.5																																																																																																																																																																							
学生数	14,850																																																																																																																																																																										
(学部・大学総合計)																																																																																																																																																																											
教職員数	専任	非常勤の割合	計																																																																																																																																																																								
教員数	1,221	761	1,982																																																																																																																																																																								
職員数	1,229	351	1,580																																																																																																																																																																								
(合計3,562)																																																																																																																																																																											
全・分館別専任の人数	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計																																																																																																																																																																							
学生	11,835	1,836	1,235	14,906																																																																																																																																																																							
教職員	2,064	2,068	296	4,428																																																																																																																																																																							
計	13,899	3,904	1,531	19,334																																																																																																																																																																							
全・分館別の非専任の構成	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計																																																																																																																																																																							
専任	18	4	8	30																																																																																																																																																																							
非常勤	1	1		2																																																																																																																																																																							
非専任	23.9	6.0	1	30.9																																																																																																																																																																							
非常勤職員	0.7	3.0	0.0	3.7																																																																																																																																																																							
学生職員等	2			2																																																																																																																																																																							
計	28.6	11.0	4.0	43.6																																																																																																																																																																							
(平成19年度)	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計																																																																																																																																																																							
図書館1人当たりの専任人数	364.0	343.4	330.7	346.0																																																																																																																																																																							

5.1.2. 開館時間

図書館開館時間の延長状況
 有人による通常開館及び時間外開館による延長状況

(時間)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
本館	2,985	2,983	3,041	3,095	3,137
亥鼻分館	3,067	3,351	3,418	3,475	3,786
松戸分館	2,792	2,847	2,847	2,970	2,770
合計	8,864	9,181	9,306	9,540	9,693
前年度比増減(%)	—	3.6%	1.4%	2.5%	1.6%

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

(本館開館日程カレンダー)

平成21年度開館日程

平日 9:00~21:45 土・日・祝 10:30~18:00 **短縮開館 9:00~16:45** ○付**教子 休館**
 延長開館(試験期時) 平日 9:00~23:15 土・日・祝 10:30~20:00
 臨時休館・開館時間の変更は事前に図書館ホームページ・掲示板等でお知らせします。

4月 April							5月 May							6月 June						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3						1	2		1	2	3	4	5	6
⑤	6	7	8	9	10	⑪	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	⑬
⑫	13	14	15	16	17	⑱	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	⑳
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
							31													

7月 July							8月 August							9月 September						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3							1			1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	⑥	7	8	9	10	11	⑫
12	13	14	15	16	17	18	9	10	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑬	14	15	16	17	18	⑱
19	20	21	22	23	24	25	⑯	⑰	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
							30	31												

千葉大学附属図書館本館 千葉市稲毛区弥生町1-33 TEL.043-290-2258 <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/>

平成21年度開館日程

平日 9:00~21:45 土・日・祝 10:30~18:00 **短縮開館 9:00~16:45** ○付**教子 休館**
 延長開館(試験期時) 平日 9:00~23:15 土・日・祝 10:30~20:00
 臨時休館・開館時間の変更は事前に図書館ホームページ・掲示板等でお知らせします。

10月 October							11月 November							12月 December						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2							1			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	①	②	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19
⑱	19	20	21	22	23	24	15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31		
							29	30												

1月 January							2月 February							3月 March						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1							1			1	2	3	4	5
3	4	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6	7	7	8	9	10	11	12	13	
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28							28	29	30	31			
31																				

千葉大学附属図書館本館 千葉市稲毛区弥生町1-33 TEL.043-290-2258 <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/>

図書館ホームページ - 利用案内 - 図書館ガイド (www.ll.chiba-u.ac.jp/libguide/guide1.html)

(開館カレンダーURL: www.ll.chiba-u.ac.jp/~etsu/calendar/)

(Web では開館カレンダー7-9月と1-3月の試験期を含む部分に表示)

試験期の延長開館時間(本館のみ) 月~金: 9:00-23:15 土日祝: 10:30-20:00

5.1.3. 入館者数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
本館	620,891	539,132	543,789	543,946	523,515	498,290
亥鼻分館	76,941	75,674	71,965	76,535	68,603	63,307
松戸分館	82,199	68,112	56,763	58,677	49,177	44,482
合計	780,031	682,918	672,517	679,158	641,295	606,079

日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる

5.1.4. 貸出冊数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
本館	120,665	114,595	115,545	114,746	115,310	103,780
亥鼻分館	17,855	17,020	17,622	18,317	17,559	16,440
松戸分館	6,425	6,175	5,805	6,236	6,042	6,042
合計	144,945	137,790	138,972	139,299	138,911	126,262

日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる

5.1.5. 文献複写・現物貸借件数

5.1.5.1. 文献複写

文献複写依頼	平成15年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
本館	2,354	2,281	2,453	2,244	2,047
亥鼻分館	4,750	3,927	3,372	2,882	2,794
松戸分館	848	669	841	417	849
合計	8,052	6,877	6,666	5,543	5,690

文献複写受付	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
本館	3,899	5,778	5,729	5,347	4,699
亥鼻分館	5,219	8,518	7,725	7,290	6,712
松戸分館	782	1,040	1,207	1,189	863
合計	10,900	15,336	14,661	13,826	12,274

5.1.5.2. 現物貸借

現物貸借借入	平成15年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
本館	544	640	864	706	765
亥鼻分館	87	88	81	104	64
松戸分館	69	52	59	247	239
合計	700	780	1,004	1,057	1,068

現物貸借貸出	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
本館	272	519	537	467	499
亥鼻分館	35	25	26	26	40
松戸分館	15	8	26	65	103
合計	322	552	589	558	642

学情情報基盤実態調査提出データによる

5.1.6. レファレンス件数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
本館	3,118	3,825	4,449	4,767	3,895
亥鼻分館	4,567	3,394	3,103	3,215	3,214
松戸分館	845	1,181	1,278	1,261	1,331
合計	8,530	8,400	8,830	9,243	8,440

学情情報基盤実態調査提出データによる

5.2. リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト

5.2.1. 授業資料ナビゲータ作成科目数

年度	作成科目数
平成 19 年度	29
平成 20 年度	46
平成 21 年度	55
(累計)	130



授業資料ナビゲータは、平成 19 年度のサービス開始時は「パスファインダー」の名称で提供した。あるテーマについて初めて学ぶ時の道しるべ (PathFinder) となる、基本的な文献・情報源をまとめた 1 枚もののリーフレット。

平成 20 年度から「授業資料ナビゲータ (PathFinder)」（略称「授業資料ナビ」）の名称で提供している。

(平成 21 年度作成科目例)

普遍教育教養コア科目		
倫理5	イメージの歴史1・2	政治学1・2
倫理6	数理2・4	音楽1
倫理1・7	歴史学5・6	生活とデザイン
倫理3・8	民俗と暮らし1・2	江戸小説を読む1・2
倫理1・3・7・8	演劇入門1・2	文学作品を読む1・2
倫理2	写真というメディアについて1・2	経営学1
数理1・3	文化の多様性を知る	社会学1・2
哲学6	経済学1・2	日本古典文学を読む
哲学8	法学1	歴史学3
倫理4	歴史学1・2	

教養展開科目	文学部
ディズニーの世界(演習)	言語学概説a
新しい授業をつくる	日本語学概説b
『平家物語』を読む	アジア史概説b
日本文化を考える	国際言語文化学入門a
日本語文法再入門	価値論
絵本製作	人文情報学概論
環境問題C	地域社会学b
現代日本の教育課題を考える	

5.2.2. ポッドキャスト制作数

ポッドキャストは、Web 上で音声や画像を配信するしくみのひとつである。

非来館型利用者へのアプローチ手段として、平成 20 年 4 月 8 日から公開している。

平成 22 年 2 月までに制作・公開しているプログラムは以下のとおりである。

ポッドキャスト@千葉大図書館 制作プログラム一覧(2008.4-2010.2)

カテゴリー	プログラム	制作・出演・協力	公開日	音声	動画	上映時間	ファイル数
						(合計タイム)	
図書館情報	ライブラリー・ツアー	学生(モニター)・図書館職員(制作, ナレーション, モニター)	2008.4	○		23分	18
	ライブラリー・イントロダクション(日本語)	図書館職員(制作, ナレーション)	2008.4	○		8分	4
	ライブラリー・イントロダクション(英語)	図書館職員(制作), 学生(ナレーション)	2008.4	○		8分	4
	ライブラリー・イントロダクション(中国語)	図書館職員(制作), 学生(ナレーション)	2008.4	○		7分	4
	ライブラリー・イントロダクション(韓国語)	図書館職員(制作), 学生(ナレーション)	2008.4	○		6分	4
	図書館Q&A	学生(ナレーション)・図書館職員(制作, ナレーション)	2008.4	○		9分	10
	図書館ガイドンス	図書館職員(制作, ナレーション)	2008.11	○		20分	4
	ライブラリー・ツアー(英・仏分館)	図書館職員(制作, ナレーション)	2009.4	○	○	20分	14
計8プログラム							
千葉大学の研究を語る	学士院賞受賞作を語る	文学部教員(出演)・図書館職員(制作)	2008.5	○	○	12分	1
	『図書資料に見るトルコの文化と歴史展』解説	文学部教員(出演・解説)・図書館職員(制作)	2008.6	○	○	5分	1
	『康氏物語絵巻展』解説	教育学部・文学部教員(解説)・図書館職員(制作)	2008.7	○		10分	2
	教員と学生が作った教科書を語る	医学部教員, 医学部学生(出演), 図書館職員(制作)	2008.9	○	○	9分	1
	環境リモートセンシング研究の紹介について	環境リモートセンシングセンター教員(出演)・図書館職員(制作)	2009.4	○	○	7分	1
	研究テーマ「欠席判決」について	専門法務研究科教員(制作, 出演)	2009.6	○	○	7分	1
	アダムスミスコレクションの解説	法経学部教員(出演)・図書館職員(制作)	2009.12	○	○	19分	2
計7プログラム							
展示紹介	『津田重隆油彩作品展』紹介	図書館職員(制作, ナレーション)	2008.1	○	○	2分	1
	『千葉市の医学と医療展』解説	医学部教員(出演)・図書館職員(制作)	2008.11	○	○	8分	1
	『千葉大学創立60周年記念展示』活躍する卒業生に聞く	卒業生(出演)・学生(制作, 出演), 図書館職員(企画)	2009.10	○	○	8分	1
計3プログラム							
千葉大学の教育	司法試験合格者インタビュー	専門法務研究科学生(出演)・教員(制作・出演)	2008.11	○		21分	4
	司法試験合格者講演	専門法務研究科学生(出演)・教員(制作・出演)	2008.12	○		29分	4
	特色GPパーソナルデスクラボ紹介	特色GP教員(理学部, 教育学部等)(企画・出演・映像提供)・図書館職員(制作, ナレーション)	2009.1	○	○	7分	1
	司法試験合格者インタビュー	専門法務研究科学生(出演)・教員(制作・出演)	2009.11	○		19分	4
	司法試験合格者講演	専門法務研究科学生(出演)・教員(制作・出演)	2010.2	○		23分	3
計5プログラム							

5.3. 図書館提供の Web サービス

千葉大学蔵書検索(OPAC)

千葉大学附属図書館の蔵書検索。図書の所蔵状況、貸出・予約状況の確認のほか、文献複写・現物貸借をオンラインで申込み可能な ILL オンライン申込みサービスがある。平成 21 年 9 月からはベストリーダーや新着図書の一覧が表示されるサービスが追加された。また、平成 18 年 5 月から携帯版 OPAC も提供を行っており、所蔵検索および貸出状況の確認が可能である。平成 22 年 7 月から予約申込みも可能となった。

MyLibrary

MyLibrary は、千葉大学の学生・教職員が各自カスタマイズして使える Web 上の図書館である。図書館が厳選したデータベースやサイトを紹介しているほか、借用中の図書の返却期限やオンラインで申込んだ文献複写や借用の進捗状況が確認可能。平成 21 年 6 月から貸出更新を行うことができるようになった。

@千葉大リンクサービス(リンクリゾルバ)

^{アット}_{ちばだい}
@ 千葉大リンクサービスは、Web 上で見つけた文献情報を入手するためのサービスであり、データベースによっては、千葉大のネットワーク内から検索した際に下記のアイコンが表示され、アイコンをクリックすると電子ジャーナル、蔵書検索などへつなぐ、ナビゲーションウィンドウが開く。

このサービスの開始以前は、データベースの検索結果を参照して、改めて蔵書検索や電子ジャーナルのタイトルリストの検索等の手間が必要であったが、このサービスによってデータベースの検索結果から直接論文本文に飛ぶことができるようになった。



^{アット}_{ちばだい}
「@千葉大リンクサービス」アイコン

6. 情報発信・広報

6.1. ライブラリー・イノベーション・センター(LIC)

平成 17 年 10 月、高度な図書館サービスの実現に向けた諸課題に取り組むため設置。発足当初は附属図書館長ほか 3 名の教員が在籍(兼任)し、平成 21 年度現在は、8 名の教員が在籍。

平成 22 年 3 月、全国の研究開発室を持つ大学図書館が連携するための、研究開発室協議会の発足に向け、千葉大学附属図書館で準備会を開催した。

(参考)

<p style="text-align: center;">○千葉大学附属図書館研究開発室(ライブラリー・イノベーション・センター)設置要項 平成17年10月1日 制定</p> <p>(設置) 第1 千葉大学附属図書館に、千葉大学附属図書館研究開発室(ライブラリー・イノベーション・センター)(以下「研究開発室」という。)を置く。</p> <p>(目的) 第2 研究開発室は、千葉大学(以下「本学」という。)における学術情報の提供に関する必要な課題について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。</p> <p>(組織) 第3 研究開発室は、室長及び室員若干人をもって組織する。</p> <p>(室長) 第4 室長は、附属図書館長をもって充てる。 2 室長は、研究開発室の業務を統括する。</p> <p>(室員) 第5 室員は、本学の教職員をもって充てる。ただし、室長が必要と認めたときは、学外の学識経験者を室員に加えることができる。 2 前項ただし書の室員は、室長の推薦に基づき、学長が委嘱する。 3 室員の任期は、1年とし、再任を妨げない。</p> <p>(事務) 第6 研究開発室の事務は、情報部学術情報課において処理する。</p> <p>(雑則) 第7 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営に関し必要な事項は、室長が定める。</p> <p style="text-align: center;">附 則 この要項は、平成17年10月1日から実施する。</p> <p style="text-align: center;">附 則 この要項は、平成18年4月1日から実施する。</p>
--

6.2. 図書館員による研究教育発表等

6.2.1. 論文・口頭発表

<雑誌掲載論文>

平成 20 年度

- ・ 鈴木宏子, 武内八重子, 中村澄子. 図書館による学習支援と教員との連携 : 千葉大学におけるパスファインダー作成の実践から. 大学図書館研究. 2008, no.83, p.19-24.
- ・ 鈴木宏子, 米田奈穂, 岩井愛子, 中村澄子, 齋藤友理. 「ポッドキャスト@千葉大図書館」の構築 : ポッドキャストによる図書館セルフガイドの作成. 情報の科学と技術. 2009, vol.59, no.1, p34-40.
- ・ 鈴木宏子, 齋藤友理, 武内八重子, 竹内茉莉子, 岩井愛子, 中村澄子, 米田奈穂. 千葉大学におけるポッドキャストによる教育研究成果の発信 : 教員連携の実践例として. 大学図書館研究. 2009, no.85, p.23-33.

平成 21 年度

- ・ 大学図書館職員研修ワーキング・グループ, 石井百葉, 小山美佳, 小高栄美, 佐藤千春, 鈴木剛紀, 高橋雅一, 武内八重子, 立石亜紀子, 永峰由梨, 堀池尚明. ワーキング・グループによる大学図書館職員研修の企画 : 「ad! ライブラリー～大学図書館効果的広報戦略～」を企画・実施して. 大学図書館研究. 2009, no.86, p11-18. (注:千葉大所属は武内八重子のみ)
- ・ 森一郎. 著作権法の改正と図書館サービスの展開. 図書館雑誌. 2009, vol.103, no.12, p818-819.
- ・ 武内八重子. 第 5 回 DRF ワークショップ 2009 年, いま改めてリポジトリ. 情報管理. 2010, vol.52, no.11, p.664-666.

<講演・口頭発表>

平成 20 年度

日付	会議名	講演・発表者	タイトル	開催地
11/27	第 4 回 DRF ワークショップ「日本の機関リポジトリとそのテーマ 2008」 (図書館総合展内)	武内八重子	Berlin6 Open Access Conference: Changing Scholarly Communication in the Knowledge Society	パシフィコ横浜

平成 21 年度

日付	会議名	講演・発表者	タイトル	開催地
6/19	第 56 回国立大学図書館協会総会	丸茂里江	教員との連携による図書館サービス “授業資料ナビゲータ(PathFinder)” と“ポッドキャスト@千葉大学図書館” を通して	新潟大学
8/5	学術認証フェデレーション(UPKI-Fed)試行運用参加説明会	野田英明	千葉大学xUPKI Federatedサービス担 当者の視点から	国立情報学 研究所
8/20~ 21	第 11 回高等専門学校 及び技術科学大学 図書館情報シンポジウム	米田奈穂	変動する学術情報流通の中でのILL	長岡技術科 学大学
10/3	機関リポジリアウトプ ット評価プロジェクト合 同ワークショップ	森一郎	ROAT: 機関リポジリアウトプ ット評価システムの改修と今後	千葉大学
10/3	DRF 主題ワークショップ (医学・看護学)	鈴木宏子	千葉大学学術成果リポジトリ CURATORと千葉医学雑誌」の連携 について	東京慈恵会 医科大学
10/23	私立大学図書館協会 東地区部会研修会	岩井愛子	ポッドキャスト@千葉大図書館	東京農業大 学
平成 22 年 1/8	DRF 地域ワークショッ プ(東北地区) 「DRF-Sendai」	森一郎	ROAT & UsrCom	東北大学附 属図書館
2/5	第 6 回 DRF ワークショ ップ「これまでの 5 年間、 これからの 5 年間」	森一郎	技術情報の普及と支援ツール開発	千葉大学

＜ポスターセッション＞

平成 20 年度

日付	会議名	発表者	タイトル	開催地
11/11 ～13	Berlin6 Open Access Conference	武内八重子	A usage-centered approach for the promotion of institutional repository : a case of Chiba University	Heinrich- Heine- University (Düsseldorf, Germany)
11/26 ～28	図書館総合展	リエゾン・ラ イブラリア ン・プロジェ クト	ポッドキャスト@千葉大図書館って 何？	パシフィコ横 浜

平成 21 年度

日付	会議名	発表者	タイトル	開催地
11/10 ～12	図書館総合展	リエゾン・ラ イブラリア ン・プロジェ クト	リエゾン・ライブラリアンによる教員と 連携するく考える学生の創造＞	パシフィコ横 浜
12/3～ 4	DRFIG2009 (デジタル リポジトリ連合国際会 議 2009)	池尻亮子	Repository helps decrease ILL requests for photocopies : a decisive, though shameless, experiment	東京工業大 学

6.2.2. 講師派遣

平成 20 年度

日付	会議名	講師等担当者	タイトル	開催地
5/20	図書館新任職員研修会	森一郎	図書館における著作権	埼玉県民活動 総合センター
7/24	学術ポータル担当者 研修	森一郎	機関リポジトリと著作権	名古屋大 学

日付	会議名	講師等担当者	タイトル	開催地
8/22	学術ポータル担当者研修	森一郎	機関リポジトリと著作権	国立情報学研究所
10/22～24	学術情報リテラシー教育担当者研修	鈴木宏子	授業資料ナビゲータ(PathFinder)の作成と活用	大阪大学
11/19～21	学術情報リテラシー教育担当者研修	中村澄子	授業資料ナビゲータ(PathFinder)の作成と活用	国立情報学研究所
11/19	兵庫県大学図書館協議会	森一郎	図書館における著作権	神戸大学

平成 21 年度

日付	会議名	講師等担当者	タイトル	開催地
7/6	ジャパンナレッジフレンドシップセミナー in 東京	鈴木宏子	パスファインダーによる初年次学生の学習支援	如水会館
9/9～11	学術ポータル担当者研修	岩井愛子	機関リポジトリシステム概論	国立情報学研究所
10/7～9	目録システム講習会	野田英明	(雑誌コース)	国立情報学研究所
10/21～23	学術情報リテラシー教育担当者研修	鈴木宏子	授業資料ナビゲータ(Path Finder)・ポッドキャストによる新たな利用者・教育支援	大阪大学
10/28	大学図書館職員短期研修	森一郎	大学図書館における著作権	東京大学
11/18～20	学術情報リテラシー教育担当者研修	丸茂里江	授業資料ナビゲータ(Path Finder)・ポッドキャストによる新たな利用者・教育支援	国立情報学研究所
11/25	ジャパンナレッジフレンドシップセミナー in 広島	鈴木宏子	パスファインダーによる初年次学生の学習支援	広島市立中央図書館
平成 22 年 2/19	機関リポジトリ研修会	武内八重子	機関リポジトリとは？ - その概説と必要性 -	長崎国際大学
3/12	UPKIシンポジウム 2010	野田英明	(パネリスト)	国立情報学研究所

6.3. 情報リテラシー教育

図書館主催ガイダンス実績

上段はガイダンスの総数、下段()書きは授業連携ガイダンスの内数

授業連携ガイダンスは、各学部学科・グループ別講習会、普遍教育「情報処理」授業支援、
図書館学関連授業に対する支援を含む

		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
回数	本館	243 (63)	212 (54)	213 (63)	241 (66)	197 (76)
	亥鼻分館	29 (18)	26 (21)	30 (25)	32 (24)	30 (21)
	松戸分館	13 (3)	8 (5)	8 (5)	5 (4)	4 (2)
	合計	285 (84)	246 (80)	251 (93)	278 (94)	231 (99)
参加人数	本館	3,579 (2,782)	3,256 (2,367)	3,735 (3,054)	4,033 (3,021)	4,508 (3,889)
	亥鼻分館	582 (522)	559 (521)	664 (597)	743 (586)	845 (578)
	松戸分館	327 (87)	422 (171)	463 (186)	390 (170)	340 (108)
	合計	4,488 (3,391)	4,237 (3,059)	4,862 (3,837)	5,166 (3,777)	5,693 (4,575)

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

平成 21 年度実施ガイダンス

本館

- ・学部学科・グループ別講習会(申込制)
- ・普遍教育「情報処理」授業支援
- ・図書館学関連授業支援
- ・図書館主催ガイダンス
 - 新入生ライブラリー・ツアー
 - クイックガイダンス 本を探す(1) 学内編 -千葉大蔵書検索 OPAC-
 - クイックガイダンス 本を探す(2) 学外編 -WebcatPlus-
 - クイックガイダンス 百科辞典を活用する -JapanKnowledge-
 - クイックガイダンス 新聞記事を探す -ヨミダス&聞蔵 II-

- クイックガイダンス 日本語の論文を探す -CiNii-
- クイックガイダンス 海外の論文を探す -Scopus-
- クイックガイダンス 文献を管理する -RefWorks-
- PsycINFO 講習会
- SciFinder Scholar 講習会
- レポート作成セミナー
- これから論文を書く人のためにー論文収集から投稿まで
- (1)辞書、新聞データベースを使いこなそう
- (2)日本語論文の検索と入手
- (3)外国語論文の検索と入手
- (4)ビジネス・海外ニュース等の情報収集
- (5)レポート作成セミナー
- (6)これから論文を書く人のために
- (7)科学技術文献情報(医薬、看護学を含む)と特許情報の収集方法&参考文献の書き方
- (8)NetLibrary 利用説明会
- SciFinder Web 版の講習会

・トライアル中データベース利用説明会

- 無料トライアル中のブリタニカ・オンライン・ジャパン利用説明会
- 無料トライアル中の ProQuest Central 利用説明会
- 無料トライアル中の Reaxys 利用説明会

亥鼻分館

・学部学科・グループ別講習会(申込制)

・図書館主催ガイダンス

- これから論文を書く人のためにー論文収集から投稿まで

松戸分館

・学部学科・グループ別講習会(申込制)

・図書館主催ガイダンス

- 新入生ガイダンス
- これから論文を書く人のためにー論文収集から投稿まで

6.4. 学術成果リポジトリ

学術成果リポジトリの整備状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
コンテンツ件数 (累計)	515	623	7,726	20,448	24,179	28,485
アクセス回数 (/月)	-	-	6,501	11,882	18,512	15,755

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)は、千葉大学において生み出された学術研究成果(学術論文、プレプリント、テクニカルレポート、学位論文、会議発表資料等)を電子的に保存し学内外に公開するインターネット上の発信拠点である。

構築までの経緯

平成14年度

- ・学術情報発信強化に向けてリポジトリシステムの構築を計画
- ・プロトタイプシステムの開発に着手(14年8月～15年3月)

平成15年度

- ・試行運用を開始(協力者グループ対象)(15年4月～9月)
- ・附属図書館長の下に「学術情報発信のための協力者会議」設置(15年10月)

平成16年度

- NII 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトに参加(16年6月～3月)
- ・館内学術情報発信支援ワーキンググループを設置(16年6月～)
- ・附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置(16年12月～)
- ・「千葉大学学術成果リポジトリ運用指針」制定(17年2月図書館運営委員会)
- ・教育研究評議会にて承認(17年2月18日)、運用開始(17年2月)

平成17年度

- ・千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)正式公開(17年7月)
- ・平成17年度国立情報学研究所最先端学術情報基盤(CSI: Cyber Science Infrastructure)次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 学術機関リポジトリ構築連携支援事業の委託を受託し学内成果を電子化・公開(以後連続して平成18年度、19、20、21年度も受託)

平成18年度

- ・学術情報検索エンジンScirus と提携
- ・CURATOR への取り組みにおいて平成18年度国立大学図書館協会賞を受賞

平成19年度

- ・登録コンテンツが1万件(19年6月)、2万件(20年2月)に達する
- ・環境リモートセンシング研究センターの衛星画像データセットとの統合検索環境の実現(21年3月)

平成20年度

- ・博士論文の登録促進のため、学生部を通じて論文提出者に対するリーフレット配布を開始(20年9月)

平成21年度

- ・学位論文の登録促進について、大学院教育委員会で承認(21年12月)
- ・故萩庭丈壽薬学部名誉教授の業績である萩庭さく葉標本の画像データ(5万点余)登録について萩庭標本データベース作成協力会と合意(22年2月)

6.5. 附属図書館 Web サイト



(平成18年 2月リニューアル)

■ ニュースサイト

平成 19 年度, 図書館広報の迅速化を目的として「ニュースサイト」を設置した。このサイトでは RSS (Really Simple Syndication) による配信を行っており, RSS 購読者は自動的にコンテンツを取得することができる。

■ データベース案内

平成 19 年度, オンラインで利用できる情報源を案内するために「データベース案内」サイトを設置した。

■ 留学生用ページ

平成 19 年度, 留学生向けサービスの向上を図るため, 留学生用ホームページを作成した。また平成 20 年度には, 英語・中国語・韓国語版の館内案内図を作成し, 同ページより公開した。

・このほか学内 LAN 接続端末に限定して学生購入希望を受け付ける等の機能を提供している。

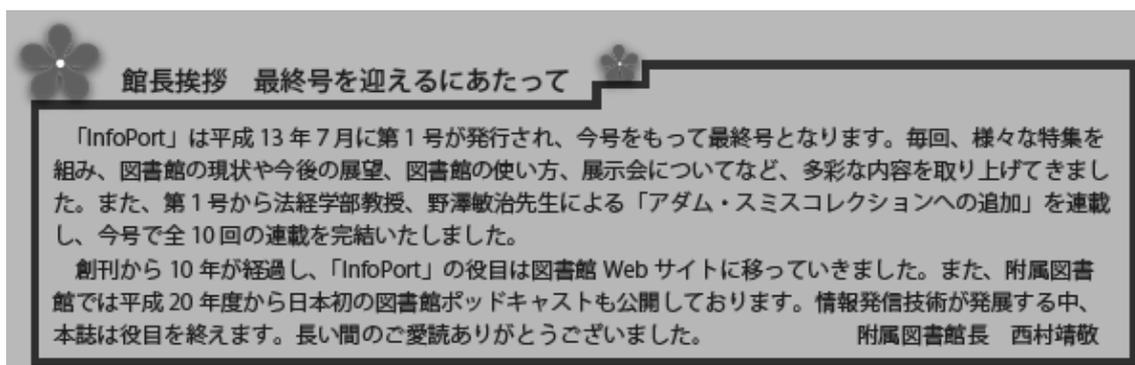
6.6. 出版物

・千葉大学附属図書館報「InfoPort」

「InfoPort」は附属図書館報として平成 13 年 7 月に第 1 号を発行した。

平成 16 年度以降では以下の 10 号を刊行したが、平成 22 年 1 月刊行の No.18 をもって終刊した。

巻号	発行年月	特集	発行部数
No.9	平成16年4月	「これって日本語!? 図書館用語集」	2,800
No.10	平成16年10月	「ユートピアの維持と発展のために -電子ジャーナル利用環境の整備と今後-」	2,000
No.11	平成17年4月	「図書館で“上手に”パソコンを使う」	2,800
No.12	平成17年10月	「図書館における地域連携の取組み」	2,000
No.13	平成18年4月	「図書館新ウェブサイト&新蔵書検索公開！」	2,800
No.14	平成18年10月	(特集なし)	2,000
No.15	平成19年4月	「はじめよう! 大学生の情報検索」	1,000
No.16	平成19年10月	(特集なし)	500
No.17	平成21年1月	(特集なし)	500
No.18	平成22年1月	(特集なし)	500



(InfoPort 最終号から)

・「千葉大学附属図書館まなびなび」

従来の利用案内に代わるものとして平成 20 年度より作成。

平成 20 年度から 22 年度まで、毎年 4 月

A5 判 8 ページで 5,000 部ずつ発行している。

・新生生には入学式(オリエンテーション)で全員に配布。

・残部も来館者で希望する方あるいは図書館主催の各種ガイダンス時に配布している。



6.7. CUFA, CURT

○CUFA

CUFA とは、多目的利用分散型学術成果等データベースシステム(Chiba University multi-use Faculty Achievement Database System)の略称であり、千葉大学の研究者が自分のデータを作成、保存・管理し、事務担当者は必要に応じてそのデータの収集、集計、加工を行うためのシステムであり、平成 17 年 9 月に開発された。このデータベース維持管理の業務は、もともと総務部の所管であったが情報部学術情報課に移管された。このシステムに関しては、データベースサーバ等の特別な設備は必要ないことがメリットであるが、ユーザインターフェースに多少問題があると学内から指摘があがっていた。

そのため、平成 21 年度には改善のための経費として学長裁量経費を要求するとともに、検討組織として情報化推進企画室の下に研究者情報管理システム検討専門部会(9 月 4 日内規制定)を立ち上げた。

同専門部会での検討に基づいて平成 22 年 3 月に研究者情報管理システムのプロトタイプ版を作成することができた。

○CURT

CURT とは、千葉大学研究者情報データベース(Chiba University Researcher Tracker)の略称で、CUFA から抽出した研究者のプロフィールおよび業績(学術成果)等の情報をインターネットを通じて 24 時間公開するシステムである。平成 21 年 3 月現在、研究業績 52,342 件が検索可能となっている。CUFA からの抽出データであるため、CUFA 自体の入力率を向上させることが課題となっている。

7. 地域・社会連携

7.1. 市民への公開

7.1.1. 入館者数

		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
登録者数	本館	1,356	1,196	1,166	1,233	1,156	1,210
	亥鼻分館	779	744	783	862	902	702
	松戸分館	—	—	3	16	31	41
	合計	2,135	1,940	1,952	2,111	2,089	1,953
	前年度比増減(%)	—	△9.1%	0.6%	8.1%	△1.0%	△6.5%
入館者数	本館	13,897	11,673	10,701	11,336	11,562	11,693
	亥鼻分館	2,913	3,151	3,826	4,181	4,006	3,279
	松戸分館	160	297	287	304	203	216
	合計	16,970	15,121	14,814	15,821	15,771	15,188
	前年度比増減(%)	—	△10.9%	△2.0%	6.8%	△0.3%	△3.7%

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

7.1.2. 貸出冊数

		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
貸出冊数	本館	1,287	2,535	2,955	2,317	2,159	2,164
	亥鼻分館	—	—	—	14	84	57
	松戸分館	—	—	7	8	31	67
	合計	1,287	2,535	2,962	2,339	2,274	2,288
	前年度比増減(%)	—	97.0%	16.8%	△21.0%	△2.8%	0.6%

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

7.1.3. 千葉県立図書館と松戸分館との相互協力件数

・千葉県立図書館と松戸分館との相互協力協定

「千葉県立西部図書館と松戸分館の相互協力協定」は平成 17 年度試行を開始、翌 18 年度より正式に締結された。本協定における千葉県立西部図書館と松戸分館の相互協力件数は以下のとおりである。

なお、平成 22 年 7 月 1 日に上位協定としての「千葉県立図書館と千葉大学附属図書館との相互協力に関する協定書」締結にあたり、本協定は廃止された。

	借 用				貸 出			
	計	(所蔵館内訳)			計	(所蔵館内訳)		
		西部図書館	中央図書館	東部図書館		松戸分館	本館	亥鼻分館
平成18年(2006)	34				8			
平成19年(2007)	23				5			
平成20年(2008)	36	16	12	8	2	2		
平成21年(2009)	29	9	9	11	7	7		

平成17年(2005)は試行を実施した
空欄は不明

・附属図書館と千葉県立図書館の相互協定

平成 21 年 12 月より千葉県立中央図書館との間で相互協力協定の締結にむけた協議を行い、平成 22 年 7 月 1 日に「千葉県立図書館と千葉大学附属図書館との相互協力に関する協定書」が締結された。

締結と同時に県立 3 館と千葉大学附属図書館 3 館の間で県立図書館の搬送車を使った相互貸借サービスが開始されている。

7.1.4. 高大連携

本学では平成 13 年度から、千葉県内の高等学校と連携教育協定を締結し、本学で開講する授業の受講を認めている。附属図書館においても、本協定に基づく受講者を対象として図書館利用者カードを発行し、附属図書館の利用および図書の貸出を認めている。

開講年度	発行枚数
平成13年度	22
平成14年度	56
平成15年度	67
平成16年度	45
平成17年度	48
平成18年度	58
平成19年度	100
平成20年度	129
平成21年度	104
平成22年度	109
計	738

7.1.5. 千葉市図書館情報ネットワーク協議会

千葉市内の各種図書館の相互協力を通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的とし、平成6年1月設立。毎年度、千葉市生涯学習センターその他で開催される「加盟館紹介展」への出展等に協力している。

平成 19 年度は千葉大学附属図書館が会長館を務めた。

7.1.6 千葉県大学図書館協議会

昭和 47 年 11 月全国図書館大会(日本図書館協会主催)が千葉県で開催されたことが発端である。昭和 59 年 11 月 20 日 第 19 回 千葉大学に於ける開催から名称を「千葉県大学図書館協議会」と改めることとなった。

毎年1回当番校において講演等をともなって会議を開催し相互に連絡し協力することで互いの発展を図っている。

8. 他機関図書館との連携

8.1. 国立大学図書館協会

国立大学図書館協会(略称:国大図協;英文略称:JANUL)は,国内全ての国立大学附属図書館を会員とする任意団体である。その目的は,国立大学の図書館機能の向上を支援するとともに,広く学術情報資源の相互利用推進,学術情報流通基盤の発展に貢献し,もって大学の使命達成に寄与することにある。

平成 21 年度においては,全国を東西各 4 つ,計 8 つのブロックに分けて地区協会を構成しており,全国で 91 の加盟館がある。前年度までは関東地区協会と称していたが,北信越地区協会の一部地域(新潟県,長野県)を取り込んで関東甲信越地区協会に変更となった。

千葉大学附属図書館は,国大図協に様々な側面から協力してきた。特に監事として平成 20 年度まで長年にわたり貢献し,同協会の理事会にも出席をしてきた。また,以下に掲げるタスクフォースや委員会等にも職員を派遣し,国大図協の維持・発展に協力をしてきた。

8.1.1. 国公立大学図書館協力委員会との連携・協力

国公立大学図書館協力委員会(以下「国公私」という。)は,国立大学図書館協会,公立大学協会図書館協議会,私立大学図書館協会の 3 団体から構成される,情報共有と連携・協力のための組織である。各団体から 2 館ずつ幹事館を出し,その中から国公私で委員長館を順次担当している。千葉大学附属図書館は,国大図協からの機関指定委員として国公私の理事,更にその中の幹事館を務めている。平成 20 年 8 月から 21 年 7 月までの 1 年間は国公私の委員長館を担当し全国の大学図書館に関わる諸問題の検討,調整およびシンポジウムの開催等の事業を行った。

8.1.1.1. 国公私専門委員会への委員の派遣

国公私の以下に掲げる 3 つの専門委員会に,国大図協からの個人指定により,千葉大から 3 名の委員を派遣して国立大学附属図書館の様々な活動に貢献している。

- ①大学図書館協力ニュース編集委員会
- ②大学図書館研究編集委員会
- ③シンポジウム企画・運営委員会

8.1.1.2. 著作権当事者協議会への委員の派遣

国公私と著作権団体等との協議の場として設けられた標記協議会に委員を 1 名派遣している。

8.1.2. 日本図書館協会との連携・協力

国大図協からの機関指定委員として、社団法人日本図書館協会（以下「日図協」という。）の役員（理事）を務めている。また、日図協大学図書館部会の施設会員として同部会の部会長館をも務めた。平成 20 年度には千葉大学が同部会の部会長館となり 1 年間部会長を務めた。また、平成 21 年度には引き続き理事を担当している。

8.1.2.1. 日図協委員会への委員の派遣

日図協の委員として、国大図協からの個人指定で以下の 2 つの委員会に委員を派遣している。著作権委員会は、本学の委員が委員長を務めている。

- ①日本図書館協会大学図書館部会
- ②日本図書館協会著作権委員会

8.1.3. 国大図協学術情報委員会電子ジャーナルタスクフォース

平成 20 年度においては、国大図協に設置された 4 つの常置委員会のうちの学術情報委員会の下部組織であった。平成 21 年度総会決定により常置委員会は 3 つとなり、電子ジャーナル関係は新たに設置された学術情報流通改革検討特別委員会で扱うこととなった。出版社等と協議を行い、加盟館におけるより有利な条件での電子ジャーナル導入を支援するための統合的な組織として活動している。名称はタスクフォースから協力員に変更された。平成 12 年度の発足当時から千葉大学は、館長や管理職、係長などをメンバーとして継続して派遣し続けており、日本の大学図書館の電子ジャーナル導入・拡大に関して多大な貢献をしている。

8.2. 最先端学術情報基盤(CSI)構築推進委託事業

最先端学術情報基盤(CSI)とは、「我が国の大学等や研究機関が有しているコンピュータ等の設備、基盤的ソフトウェア、コンテンツ及びデータベース、人材、研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する」ための基盤である。次世代学術コンテンツ基盤は CSI を構成する主要な柱のひとつであり、学術コミュニティにとって不可欠な学術コンテンツを確保し、その安定的な提供を保証するとともに、大学や研究機関等で生み出された教育研究成果を収集、組織化し、付加価値を付けて広く社会に発信するための情報基盤である。

国立情報学研究所では CSI 構築推進事業の一環として、機関リポジトリの構築と連携を促進するために、平成 16 年度に「機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト」を実施し、平成 17 年度からは次世代学術コンテンツ基盤共同構築に向けた委託事業を実施している。本学で受託した事業は以下のとおりである。

平成 16 年度

機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトに参加。

平成 17 年度

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

学術機関リポジトリ構築連携支援事業 委託事業を受託。

(以下、同じなので省略。その内訳【領域 1, 2】を記載する。)

平成18年度

領域1(コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリの評価システム(主担当)
- ・研究コミュニティ創出支援(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化(分担:国際的協力)
- ・リンクリゾルバ対応システムの開発(分担)
- ・著作権ポリシー共有機能(分担)

平成19年度

領域1(コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリの評価システム(主担当)
- ・研究者一情報の共進化型コミュニティ創出支援(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化(分担)
- ・リンク・リゾルバを通じた機関資源へのアクセス(分担)
- ・国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト(分担)

平成20年度

領域1(コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリ評価のための基盤構築(主担当)
- ・e-Science 基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験(主担当)
- ・ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化(分担)
- ・その他, SCPJプロジェクト2など複数のプロジェクトに連携機関として協力

平成21年度

領域1(コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリ評価のための基盤構築(主担当)
- ・e-Science 基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験(主担当)
- ・ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化 (DRF)(分担)
- ・その他, SCPJプロジェクト2など複数のプロジェクトに連携機関として協力

8.3. デジタルリポジトリ連合(DRF: Digital Repository Federation: ダーフ)

DRF は、上記 8.2 に掲げた CSI 経費による活動として出発しているが、国内外における活動に広がりを見せつつあるため別項目として扱うこととした。

平成 18 年度に採択された CSI 事業領域 2 の「機関リポジトリコミュニティの活性化」(主担当: 北海道大学, 連携大学: 千葉大学, 金沢大学)を契機として、リポジトリ継続のための大学間等のゆるやかな連携活動を DRF と称することとして活動を開始した。千葉大学は、DRF 設立当初から深く関わり、現在も運営委員会やワーキンググループにメンバーを派遣し、その活動に関する協力体制を維持している。

8.3.1. DRFIC

DRF の普及と国際的な進展を図るため、次の国際会議が開催された。

- ①DRFIC2008 DRF International Conference 2008 -- Open Access and Institutional Repository in Asia-Pacific (Osaka University, 30-31 January, 2008)
- ②DRFIC2009 DRF International Conference 2009 -- Open Access Repositories now and in the future - from the global and Asia-Pacific points of view (Tokyo Institute of Technology, 3-4 December, 2009)

DRFIC2009 のポスターセッションにおいて、千葉大学は参加者の投票により 1 位を獲得した。

8.3.2. DRF ワークショップ

平成 21 年度まで以下の 6 回のワークショップを開催している。

- ①DRF1 第 1 回 DRF ワークショップ「機関リポジトリの構築に向けて: CSI 事業の意義とケーススタディ」(千葉大学, 平成 18 年 11 月 17 日)
- ②DRF2 第 2 回 DRF ワークショップ「機関リポジトリをデザインする: 設計とコンテンツ」(早稲田大学, 平成 19 年 2 月 8~9 日)
- ③DRF3 第 3 回 DRF ワークショップ「日本の機関リポジトリの今 2007」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 19 年 11 月 9 日)
- ④DRF4 第 4 回 DRF ワークショップ「日本の機関リポジトリとそのテーマ 2008」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 20 年 11 月 27 日)
- ⑤DRF5 第 5 回 DRF ワークショップ「2009 年, いま改めてリポジトリ」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 21 年 11 月 11 日)
- ⑥DRF6 第 6 回 DRF ワークショップ「これまでの 5 年間, これからの 5 年間」(北海道大学附属図書館, 平成 22 年 2 月 5 日)

9. 各館特記

9.1. 本館

平成 20 年度・21 年度 展示一覧

(<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~kikaku/exhibit/exhibit.html>)

- | | | |
|----------|-------------|--|
| ■平成 21 年 | 10.27-11.30 | 企画展 千葉大学創立 60 周年記念展示 |
| ■平成 21 年 | 09.28-10.16 | 企画展 「院生の院生による院生応援メッセージ」 |
| ■平成 21 年 | 07.07-07.26 | 企画展 「大仮面展」 |
| ■平成 21 年 | 06.01-06.30 | 資料展 「ユーラシア(徳永)文庫展」 |
| ■平成 21 年 | 04.13-05.22 | 人生で初めて出会う本Ⅱ「絵本の魅力」 |
| ■平成 21 年 | 01.13-02.04 | マナーアップキャンペーン |
| ■平成 21 年 | 01.06-01.31 | 国際協力写真展 「エチオピアに住む人々とその生活」
(主催:千葉大学国際協力サークル CROSS) |
| ■平成 20 年 | 12.08-12.22 | 企画展 学生から見たワーク・ライフ・バランス～「研究者として」生きる道
(主催:両立支援企画室) |
| ■平成 20 年 | 11.05-11.30 | 特別展 「千葉市の医学と医療」 |
| ■平成 20 年 | 10.07-10.29 | 澤田重隆油彩作品展 |
| ■平成 20 年 | 07.08-09.29 | 資料展示 源氏物語絵巻展 |
| ■平成 20 年 | 07.01-07.31 | マナーアップキャンペーン |
| ■平成 20 年 | 05.07-06.30 | 図書資料に見るトルコの文化と歴史 |
| ■平成 20 年 | 04.07-04.30 | 資料展示 近代文学の名著で味わう装丁の美 |



(展示会のポスター例)

9.2. 亥鼻分館

9.2.1. 古医書コレクションの電子化について

古医書コレクションの主体は、江戸時代から明治時代初期に出版・書写された医書で、和方、漢方、蘭方、洋方など多岐にわたる。また医学以外では、天文、和算、文学、史書等の書籍も若干含まれている。

千葉大学附属図書館亥鼻分館では千葉医学会より助成をいただき、平成 19(2007)年度より 4 年計画にて「千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵 古医書コレクション」の撮影を行い、資料の画像を Web 上で公開してきた。

2007—2009 年度 電子化資料一覧

資料名	巻	著者	出版年
医家千字文	1	惟宗 時俊	永仁 4 年 11 月
医事惑問	2	吉益 東洞	明和 6 年
医断	1	吉益 東洞, 鶴 元逸	文化 6 年
一本堂薬選	3	香川 修徳	享保 19 年
医臈	3	多紀 元簡	文化 6 年
医範	1	吉益 南涯	文政 8 年 10 月
医範提綱	3	宇田川 玄真	文化 2 年
医範提綱内象銅板図	1	宇田川 榛斎	文化 5 年 3 月
医方口訣集	3	土佐 道寿	延宝 9 年
解屍實写図巻	1	不明	不明
回春序鈔	3	管 玄洞	万治 3 年
解臟図賦	1	池田 冬蔵	文政 6 年
眼目明鑑	6	杏林庵 医生	宝永 4 年 5 月
鳩慮模斯解体譜	1		文政 4 年[跋] [文政 9 年]
広恵濟急方	3	多紀 元恵	寛政 2 年
校正・病因考	2	後藤 衡陽	文化 12 年
察病亀鑑	3	青木 浩斎	安政 4 年
察病指南	1	施 桂堂	正保 3 年
産科探頷図訣	2	水原 義博	天保 6 年
産術内外秘訣	1	三宅 春齡/記	天保 7 年
重訂解体新書	13	大槻 玄沢	文政 9 年 7 月
小児活法	1	松下 元真	正徳 3 年
聖功方(授蒙聖功方)	2	曲直瀬 道三	慶長 5 年
青囊珍珠	3	江馬 天江	安政 4 年
蔵志	2	山脇 東洋	宝暦 9 年
治方佩玦	1	能条 玄長	文化 9 年 5 月
吐方考	1	永富 独嘯庵	宝暦 13 年
内治全書(扶氏経験遺訓)	1	扶歇蘭度	安政 4 年 8 月
難經本義	2	滑 寿	元禄 3 年
能毒	1	曲直瀬 玄朔	正保 2 年 3 月

資料名	巻	著者	出版年
病学通論	3	緒方 洪庵	嘉永 2 年
腹診録	1	和田 東郭	嘉永 3 年
扶氏診断	3	山本 節庵	安政 5 年
婦人臓図	1	菅原 誠意	安永 3 年

2010 年度 電子化予定資料一覧

資料名	巻数	著者	出版年
青眼医方	1	馬島清眼	筆写本
大和本草諸品図	3	貝原益軒	正徳5年
眼科新説	1	(ボンベ)邦百氏	筆写本
建殊録	1	吉益東洞	宝暦13年
七新葉	3	司馬凌海	文久2年
牛痘小考	1	榎林宗建	嘉永2年
本朝医考	1	黒川道祐	寛文3年
扶氏経験遺訓薬方	2	フーフェランド/著 緒方洪庵/訳	安政4年
病名集	1		筆写本
婦人病論	6	船曳修徳(卓堂)	嘉永3年
眼科新書	6	杉田立卿	文化12-13年
通用古方詩括	1	猪飼可久軒	万治3年
闇目口伝抄	1	堀江秀利, 雲正観善	筆写本原著 永禄13年
目病真論	1	中目樗山	嘉永3年

9.2.2. 特定非営利活動法人日本医学図書館協会への参加

(1) 重複雑誌交換

会員が所蔵する生命科学及び保健関係雑誌の欠号補充に寄与することを目的に年一回実施されている。

(平成21年度実績)

提出冊数		他会員への申込冊数		他会員からの受領冊数		他会員への譲渡冊数	
和文雑誌	欧文雑誌	和文雑誌	欧文雑誌	和文雑誌	欧文雑誌	和文雑誌	欧文雑誌
376	92	1	29	1	24	51	1

(2) 電子ジャーナルコンソーシアムへの参加

医学図書館協会による電子ジャーナルコンソーシアムを通すことにより、「ProQuest Health and Medical Complete」を有利な条件で契約している。

また、平成 23 年度から「Annual Reviews 12title」についてもコンソーシアムを通して導入する予定である。

9.3. 松戸分館

9.3.1. 千葉大学園芸学部創立百周年記念展示会「江戸時代の園芸文化史」

(平成 21 年 10 月 16 日～11 月 15 日)

貴重書室所蔵の和本 39 点展示

千葉大学園芸学部創立100周年記念展示会
「江戸時代の園芸文化史」
 ～岩佐亮「コレクション」を中心に～

開催期間：平成21年10月16日(金)～11月15日(日)
 会場：松戸市立定規児童館

入場料：無料

お問い合わせ：0476-321-1111 (FAX) 0476-321-1112 (TEL)
 0476-321-1113 (TEL) 0476-321-1114 (TEL)

「江戸時代の園芸文化史」
 ～岩佐亮「コレクション」を中心に～

Ⅰ 岩佐亮「二伝統園芸植物の花姿」
 江戸時代の園芸文化史の中心となる『二伝統園芸植物の花姿』は、江戸時代の園芸文化を代表する重要な著作である。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅱ 江戸時代「浮世絵の花姿」
 江戸時代の園芸文化は、浮世絵の発展とともに盛況を遂げた。浮世絵の発展は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅲ 江戸時代「花の発生」
 江戸時代の園芸文化は、花の発生とともに盛況を遂げた。花の発生は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅳ 江戸時代「大名と園芸」
 江戸時代の園芸文化は、大名の園芸とともに盛況を遂げた。大名の園芸は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅴ 江戸時代「園芸の発展」
 江戸時代の園芸文化は、園芸の発展とともに盛況を遂げた。園芸の発展は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅵ 江戸時代「幻の將軍・徳川昭武と江戸定規と園芸」
 江戸時代の園芸文化は、幻の將軍・徳川昭武と江戸定規と園芸とともに盛況を遂げた。幻の將軍・徳川昭武と江戸定規と園芸は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅶ 江戸時代「花昌蒲の品種改良に打ち込んだ生涯 松平定朝」
 江戸時代の園芸文化は、花昌蒲の品種改良に打ち込んだ生涯 松平定朝とともに盛況を遂げた。花昌蒲の品種改良に打ち込んだ生涯 松平定朝は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅷ 江戸時代「公園設計と博物学の先駆者 松平定信」
 江戸時代の園芸文化は、公園設計と博物学の先駆者 松平定信とともに盛況を遂げた。公園設計と博物学の先駆者 松平定信は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅸ 江戸時代「自然愛好の潮流」
 江戸時代の園芸文化は、自然愛好の潮流とともに盛況を遂げた。自然愛好の潮流は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

Ⅹ 江戸時代「大分世の世民文化の開花」
 江戸時代の園芸文化は、大分世の世民文化の開花とともに盛況を遂げた。大分世の世民文化の開花は、江戸時代の園芸文化の発展を促した。本書は、江戸時代の園芸文化の発展と変遷を詳しく解説している。

(パンフレット画像は千葉大学園芸学部創立 100 周年記念事業会のご厚意により転載)

9.3.2. 千葉大学附属図書館松戸分館江戸・明治期園芸書コレクションの電子化

園芸学部 100 周年記念展示会において紹介された資料について、次年度以降も順次画像電子化をすすめることで、千葉大学を代表する園芸書電子化コレクションの構築を目標とする。

平成 21 年度事業

ファイル構成: 保存用画像, 公開用画像 各 1 式

電子化画像: 13 点 24 冊 計 701 枚

公開閲覧メニュー(基本モデル): 1 式 (Contents View Book 対応)

公開用キャプション作成: 緑地環境学科 小野佐和子教授に依頼(次年度予定分含む)

電子化タイトル一覧(内容)(平成 22 年 2 月現在)

1	花菖培養録草稿(花菖蒲改良の歴史 自筆彩色図版)
2	古歌僊楓集, 新歌僊楓集, 追加楓集 (楓図譜 古歌僊楓集, 新歌僊楓集, 追加楓集の三部で 100 品種収載 彩色図版)
3	三都一朝(江戸・大坂・京都の名花 84 点収載 彩色図版)
4	花壇朝顔通(変化朝顔 180 余品を分類 代表的な品種について彩色図版)
5	朝顔譜(朝顔品評会 48 点収載)
6	都鄙秋興(変化朝顔 122 品種収載 彩色図版)
7	金生樹譜別録(松, 柳, 梅の銘品の紹介, 挿木など繁殖方法, 盆栽の育成環境を詳述)
8	草木奇品家雅見(奇品(ねじれ, 矮化など)・斑入り植物図譜 512 種収載)
9	菊花壇養種(菊専門の栽培書 図版あり)
10	橘品類考 前編(からたちばな 70 余品を紹介 うち 16 品の彩色図譜)
11	松葉蘭譜(松葉蘭図譜 122 品種を紹介 うち 60 品種の彩色図版)

次年度事業予定

平成 22 年度内公開に向け、書誌情報等コンテンツ整備を行う。前年度電子化を実施していない資料のうち、候補として解説が用意されている 14 点 32 冊より電子化する資料を選定する。

平成 22 年度電子化予定タイトル一覧 電子化画像 4 点 17 冊 計 732 枚

1	草木育種(植物栽培の啓蒙書。上巻は栽培一般の総論, 下巻は植物個別の各論)
2	草木錦葉集(斑入り植物 1000 品の写生と, 植物の特性や栽培を記した書)
3	俳諧季寄図考草木(俳諧で取り上げられる植物の写生をもとに, 月単位にて構成された書)
4	絵本野山草(絵師により描かれた植物図譜。マリーゴールドやポピーなど外来植物も収載)

(参考資料) 国立大学法人千葉大学 年度計画 図書館関係部分抜粋

平成16年度

○図書館機能の高度化とデジタル・キャンパス化を推進するための具体的方策

- ◆ 図書館機能の高度化を図るため、以下の措置を講ずる。
 - ・ 資料選定委員会等の活動を一層充実させ、学術資料の質・量の充実を図るとともに、総合メディアホールの整備計画に基づき利用環境の整備を検討する。
 - ・ 授業連携・授業密着型のガイダンスを強化・拡大し、授業支援を行う。
 - ・ 学生収容定員の10%以上の座席数の増設を計画するとともに、開館日、開館時間の拡大について検討し、実施計画を立案する。
 - ・ 専門的資料の充実を図るため特別図書購入計画について検討するとともに、電算機導入以前の図書目録情報(3.6万件)の電子化を実施する。
- ◆ 学生の情報基盤利用環境を点検し、学生サービスのオンライン化を検討する。

平成17年度

○図書館機能の高度化とデジタル・キャンパス化を推進するための具体的方策

- ◆ 図書館機能の高度化を図るため、以下の措置を講ずる。
 - ・ 学術資料の質・量の一層の充実を図るとともに、総合メディアホール等の整備計画に基づき利用環境の充実について検討を進める。
 - ・ 引き続き、授業連携・授業密着型のガイダンスを充実し、授業支援を行う。
 - ・ 学生の自主学習を支援するため、開館日・開館時間の拡大を図る。
 - ・ 特別図書購入計画について検討するとともに、電算機導入以前の図書目録情報の電子化をさらに進める。
- ◆ 引き続き、学生の情報基盤利用環境を点検し必要な改善を図るとともに、学生サービスのオンライン化を検討する。

平成18年度

○図書館機能の高度化とデジタル・キャンパス化を推進するための具体的方策

- ◆ 図書館機能の高度化を図るため、以下の措置を講ずる。
 - ・ 学習上必要な学術資料の充実を図るとともに、図書館職員の選書への関与を推進する。引き続き、総合メディアホール(仮称)の整備計画を検討するとともに、利用環境の充実に努める。
 - ・ 普遍教育の授業に連携し、テーマ別情報資源案内を作成する等、学生の情報収集・活用法の習得を支援する。
 - ・ 学生の自主学習を支援するため、座席の増設、24時間利用体制の拡充等について検討する。
 - ・ 各種電子コンテンツ及びそのナビゲーションシステムを整備するとともに、電算機導入以前の図書目録情報の電子化をさらに進める。
- ◆ 引き続き、学生の情報基盤利用環境を点検し必要な改善を図るとともに、学生サービスのオンライン化を検討・推進する。

平成19年度

○図書館機能の高度化とデジタル・キャンパス化を推進するための具体的方策

◆ 附属図書館は、自ら策定する方針に基づき、以下の措置を講ずる。

・ 学習上必要な学術資料の充実を図るとともに、引き続き図書館職員の選書への関与を推進する。また、施設整備の年次計画をたて利用環境の充実を図る。

・ 普遍教育教養コア科目のカリキュラムに即したパスファインダー(主題別情報資源案内)を作成し、提供する。また情報リテラシーに係るガイダンスを通して授業支援を実施する。

・ 学生の自主学習を支援するため、適正な座席数の充足を図るとともに、開館時間について調査・検討して延長を図る。

・ 電子ジャーナル、データベースの充実に加え、電子ブックについても拡充を進めるとともに、電算機導入以前の図書館目録の完全電子化を継続する。また、学術成果リポジトリ(CURATOR)の拡充を図り、研究者データベースとの連携を図りつつ、学内研究成果の発信に努める。

◆ 引き続き、学生の情報基盤利用環境について、ハード面・ソフト面における整備状況を点検・検証し、必要な改善を図る。

平成20年度

○図書館機能の高度化とデジタル・キャンパス化を推進するための具体的方策

◆ 附属図書館は、自ら策定する方針に基づき、以下の措置を講ずる。

・ 学習上必要な学術資料の充実を図るとともに、施設・設備を整備し、利用環境の充実を図る。

・ 普遍教育教養コア科目のカリキュラムに即した授業資料ナビゲータを作成し、提供する。また情報リテラシーに係るガイダンスを行い、授業を支援する。

・ 土日祝日の開館時間延長の本実施を行うとともに、閲覧席の配置等を見直し、閲覧環境の整備を図る。

・ 各種電子コンテンツを充実させ、学術成果リポジトリ(CURATOR)と研究者情報データベースの連携を推進する。また、電算機導入以前の図書目録の電子化事業を総括するとともに今後の計画について検討する。

◆ 学生の情報基盤利用環境について、ハード面・ソフト面における整備状況を点検し、必要な改善を図る。

平成21年度

○図書館機能の高度化とデジタル・キャンパス化を推進するための具体的方策

◆ 附属図書館は、自ら策定する方針に基づき、以下の措置を講ずる。

・ 学習上必要な学術資料の充実を図るとともに、施設・設備を整備し、利用環境の充実を図る。

・ 普遍教育教養コア科目のカリキュラムに即した授業資料ナビゲータの充実を図る。また情報リテラシーに係るガイダンスを行い、授業を支援する。

・ 閲覧席の配置等を見直し、閲覧環境の整備を図る。

・ 各種電子コンテンツを充実させ、学術成果リポジトリ(CURATOR)と研究者情報データベースの連携を推進する。

◆ 学生の情報基盤利用環境について、ハード面・ソフト面における整備状況を点検し、必要な改善を図る。

平成22年度 千葉大学附属図書館自己点検・評価報告書

平成23年2月

編集・発行 千葉大学附属図書館

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL 043-290-2244
FAX 043-290-2255

URL: <http://www.LL.chiba-u.ac.jp/>